

伊東市
結婚・出産・子育てに関するアンケート
調査結果報告書

令和2年3月

伊東市

目 次

I	調査概要	1
1	調査の目的	1
2	調査項目	1
3	調査方法	1
4	回収状況	1
5	この報告書の見方	1
II	結婚・出産・子育てに関するアンケート 調査結果	3
1	あなた自身について	3
2	結婚について	7
3	出産・子育てについて	22
4	少子化問題について	30

I 調査概要

I 調査概要

1 調査の目的

人口減少・少子高齢化の進展の中、地方で進められる「まち・ひと・しごと創生」にかかる取り組みとして、地域の人口の現状分析及び将来の人口見通しを示す「伊東市人口ビジョン」の策定を進めている。この人口ビジョン策定にあたり、結婚・出産・子育てに関する現状や課題を検討するための基礎資料とするために実施した。

2 調査項目

調査種別	調査項目
①結婚に関するアンケート	1 結婚についての考え方 2 結婚経験 3 独身の方の意向や交際経験 4 いずれ結婚したい方の意向 5 結婚している方、婚約中の方の意向 6 行政の結婚支援への意向
②出産・子育てに関するアンケート	1 子どもがいる方の意向 2 子ども的人数についての意向 3 育児休業等についての意向

3 調査方法

調査対象：市内在住の20～44歳の方 1,000人（無作為抽出）

調査期間：令和元年9月4日～令和元年9月24日

調査方法：郵送配付・郵送回収

4 回収状況

対象数	回収数	有効回収数	有効回収率
1,000	224	224	22.4%

*有効回収数：回収数から全く回答がないもの（白票）を除いた数

5 この報告書の見方

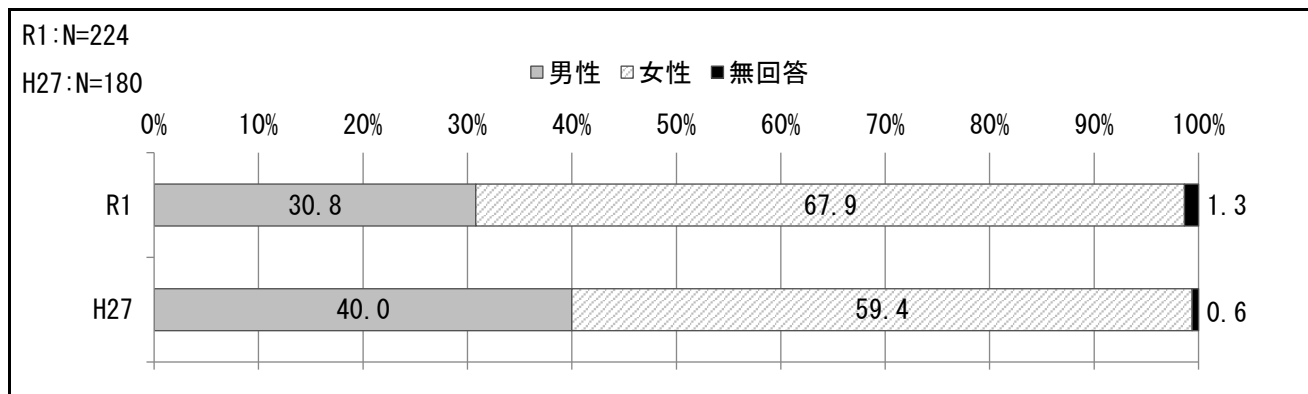
- ・当該質問に回答した人の実数（回答母数）を表記する場合は「N」と表示した。
- ・集計結果の%表示は、小数点以下第2位を四捨五入してあるので、構成比の合計がちょうど100.0%にならない場合がある。
- ・複数回答が可能な設問の場合は、すべての構成比の合計がちょうど100.0%にならない場合がある。

Ⅱ 結婚・出産・子育てに関するアンケート 調査結果

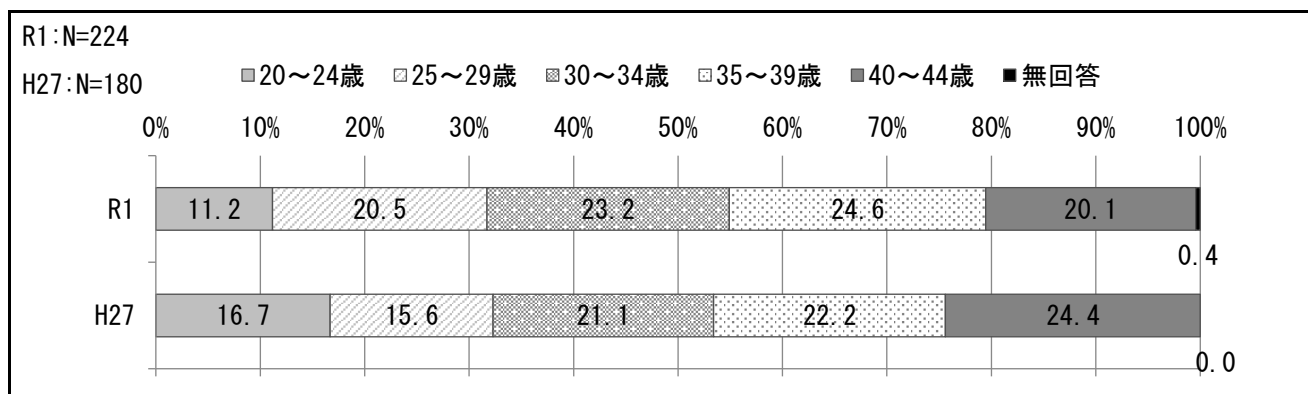
Ⅱ 結婚・出産・子育てに関するアンケート 調査結果

1 あなた自身について

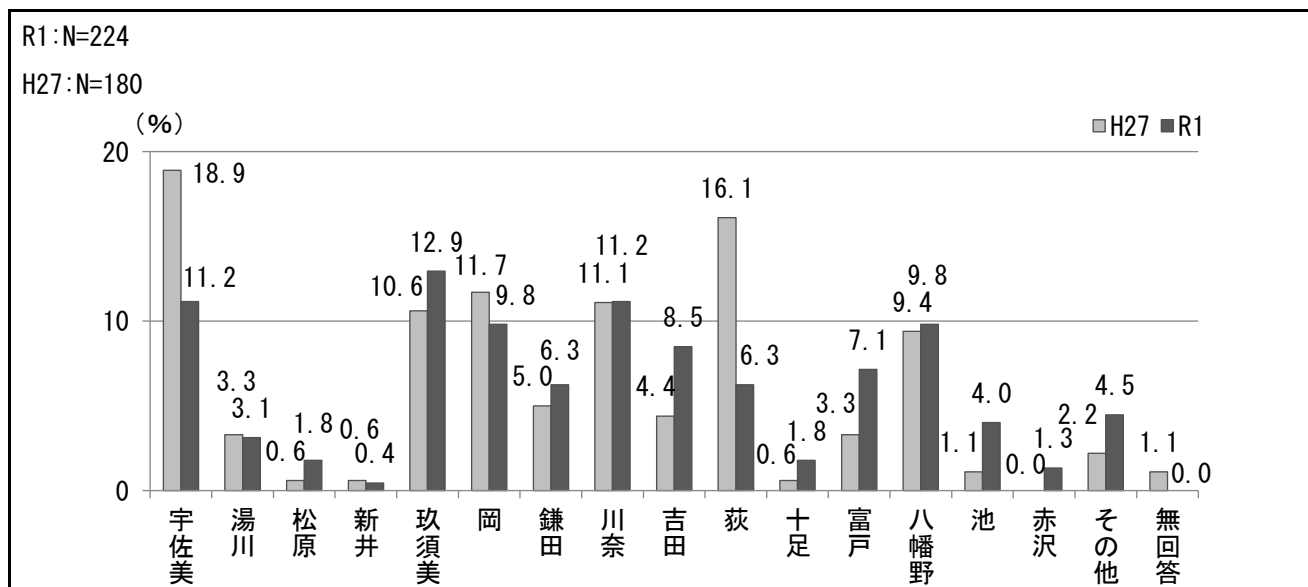
問1 性別 (○は1つ)



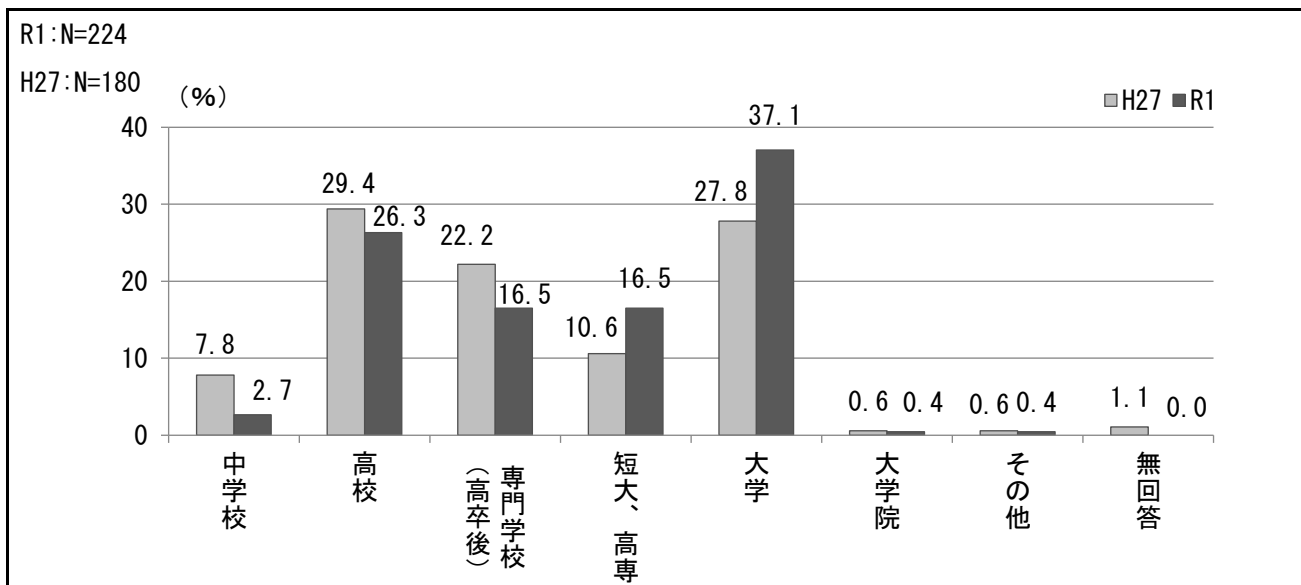
問2 年齢 (○は1つ)



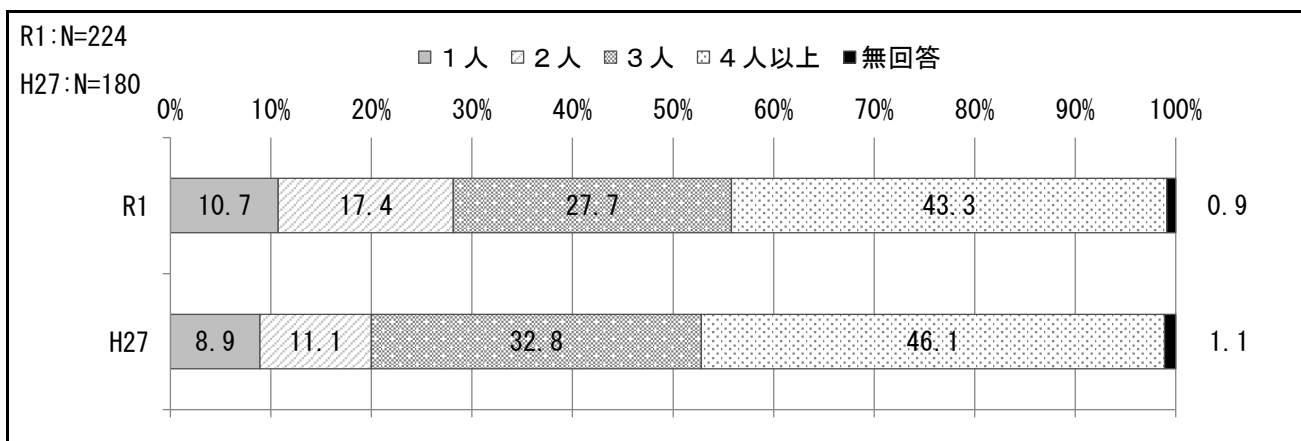
問3 居住地域 (○は1つ)



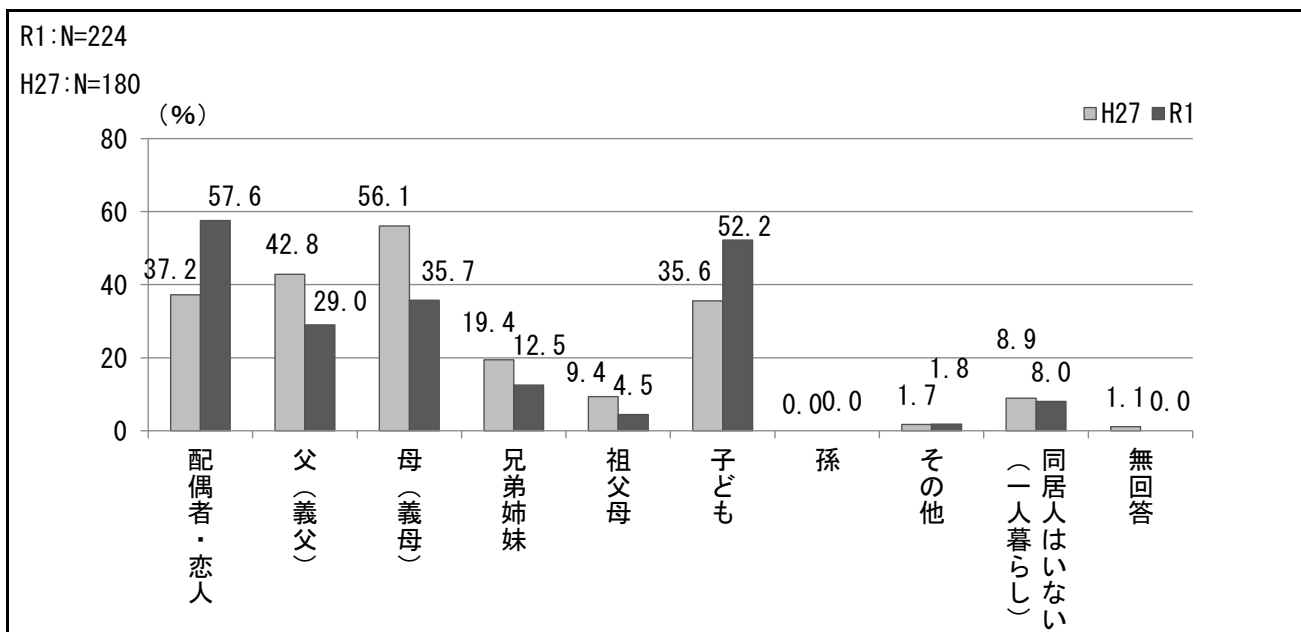
問4 最後に卒業した（または在学中）の学校（○は1つ）



問5 世帯人数（○は1つ）

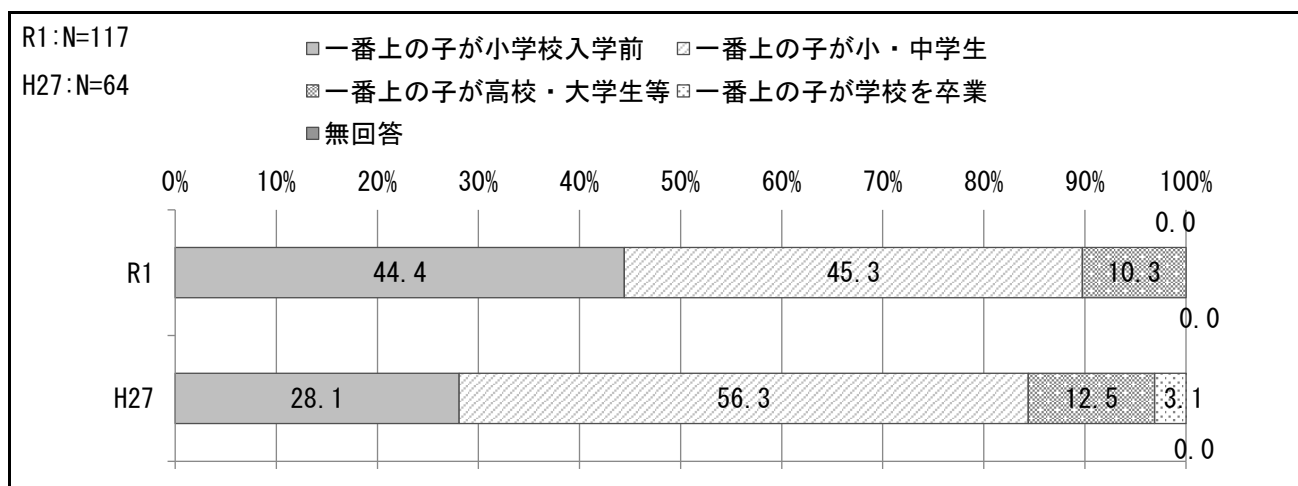


問6 同居人（○はいくつでも）

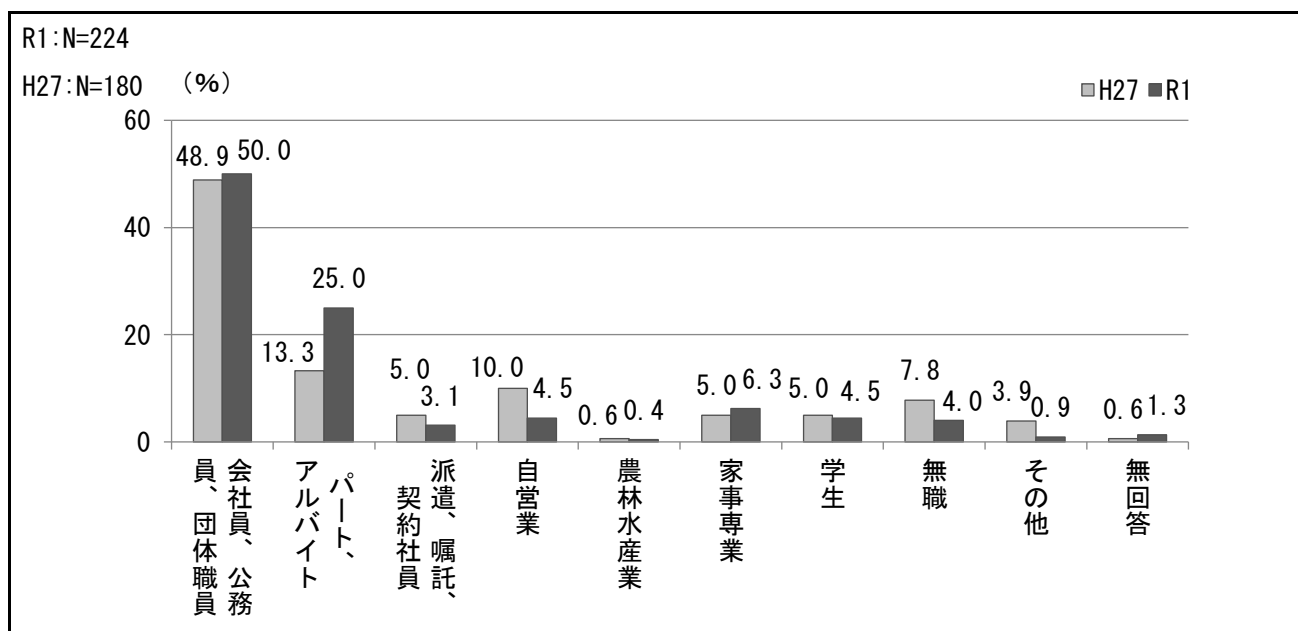


問6-1 同居している子の状況 (○は1つ)

※問6で「子ども」を選んだ方のみ

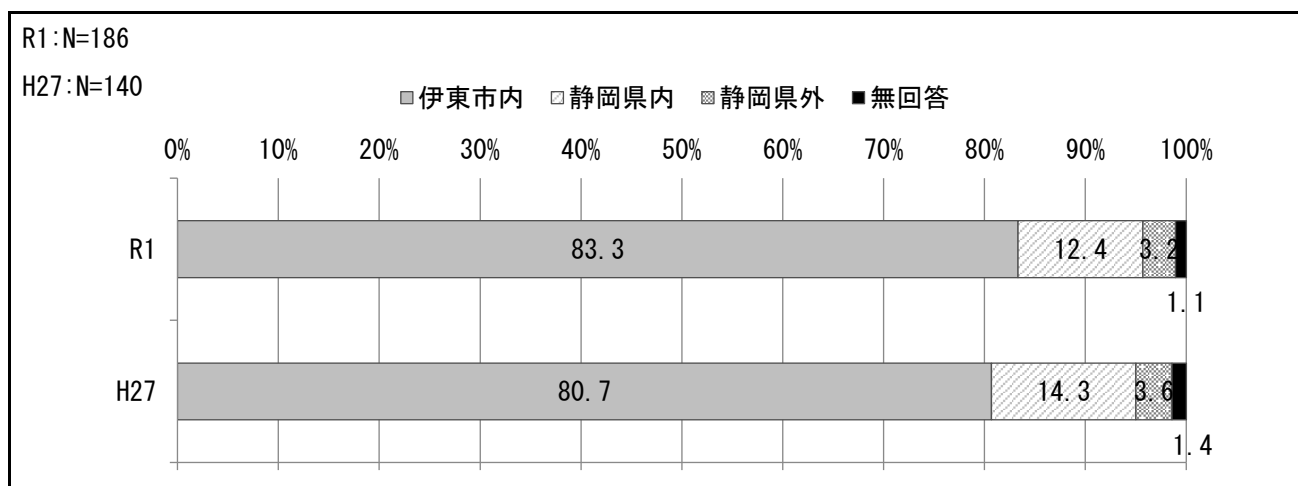


問7 職業 (○は1つ)

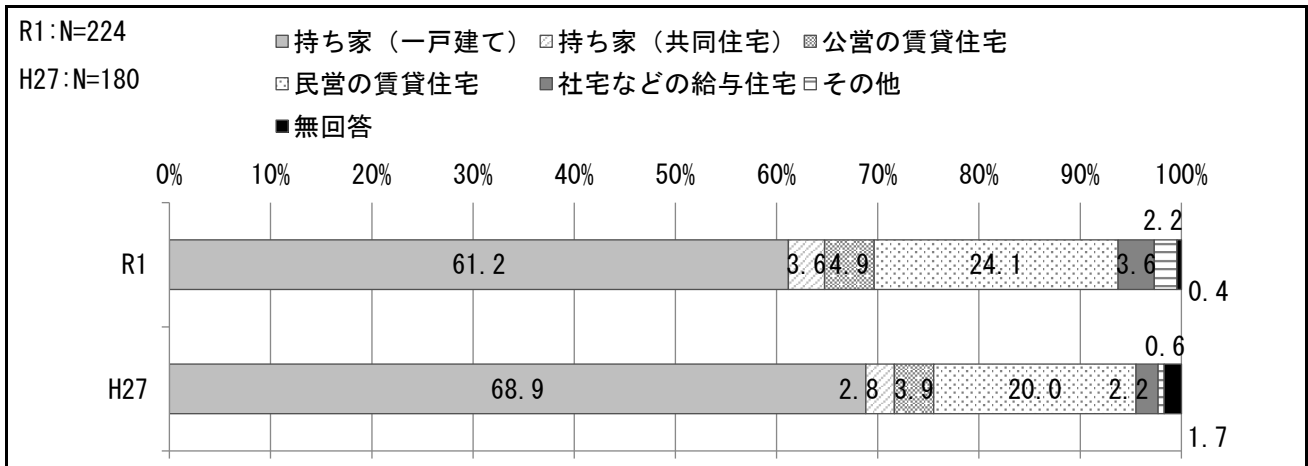


問7-1 勤務先 (○は1つ)

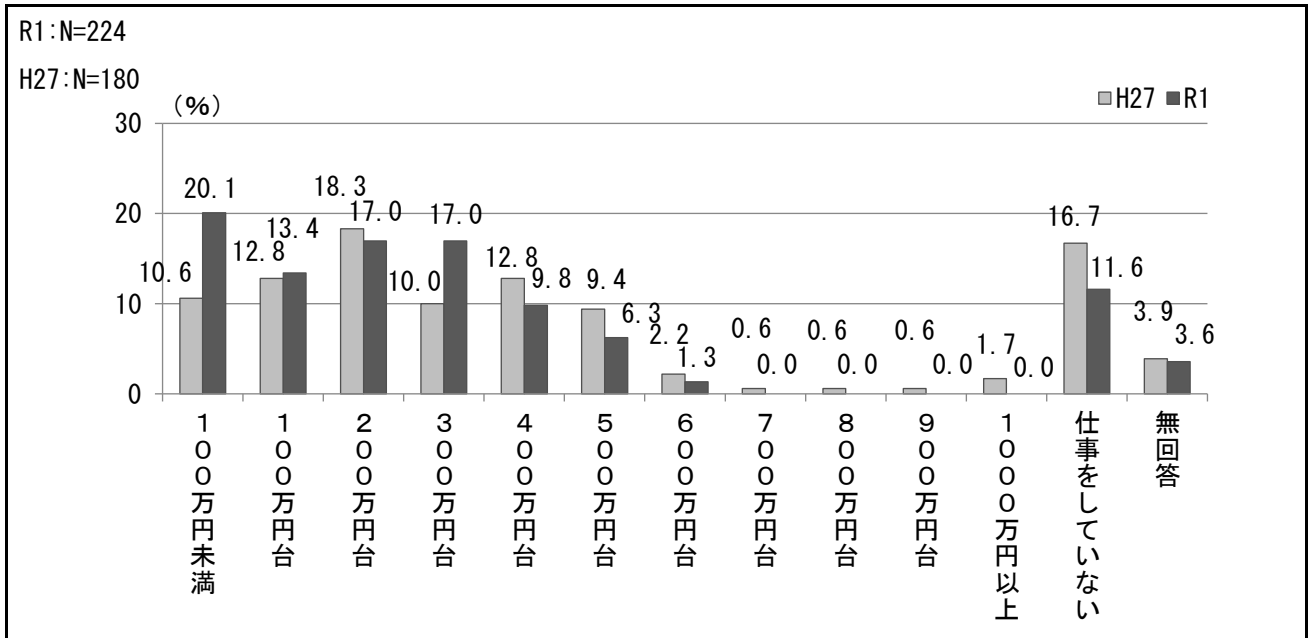
※問7で「会社員、公務員、団体職員」～「農林水産業」を選んだ方のみ



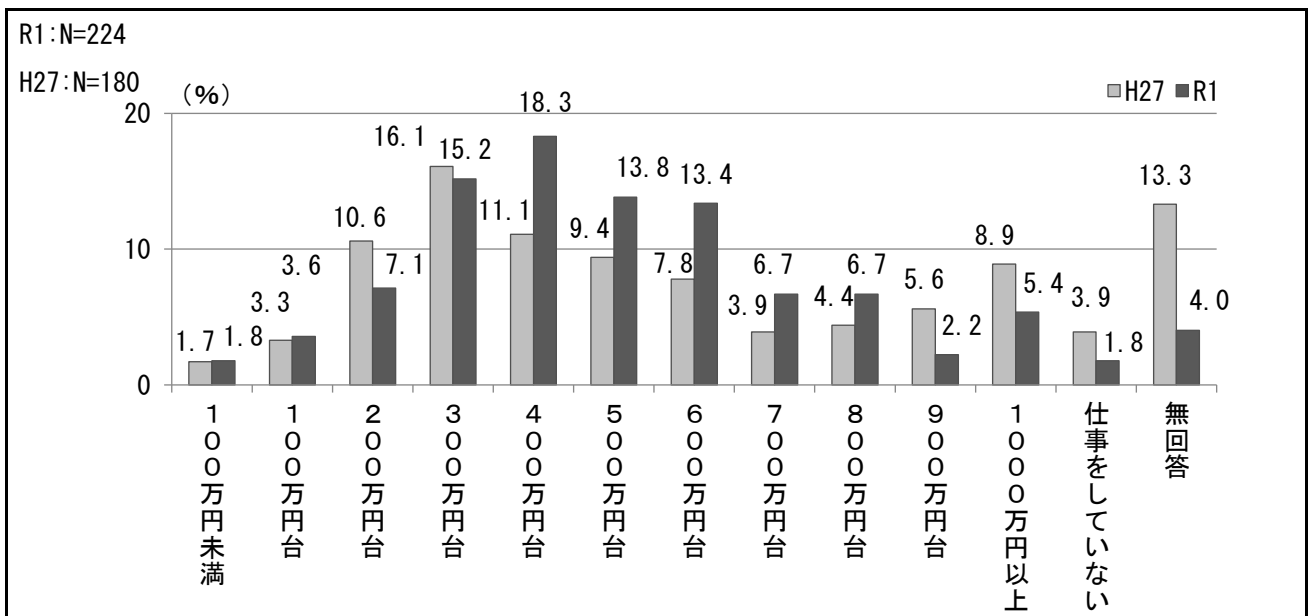
問8 住宅の種類（○は1つ）



問9 平成26年（平成27年回答者）と30年（令和元年回答者）の年収（○は1つ）



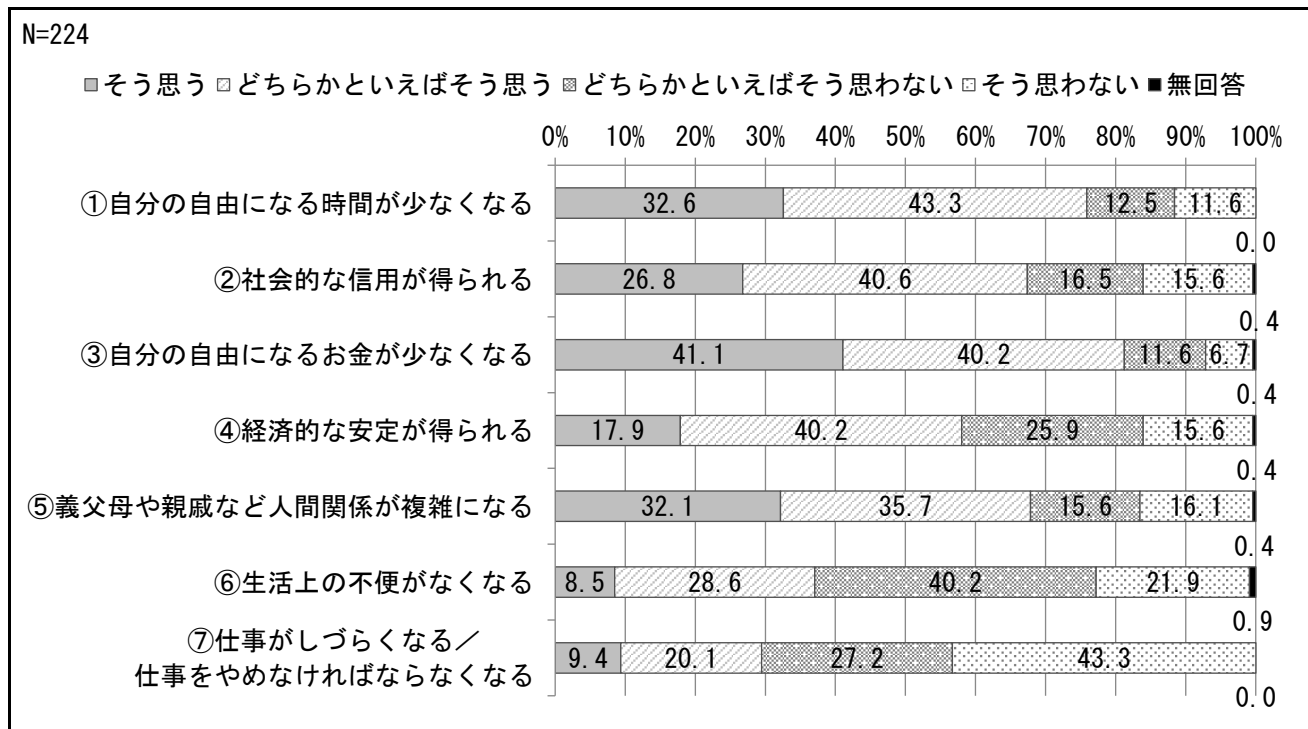
問10 平成26年（平成27年回答者）と30年（令和元年回答者）の世帯年収（○は1つ）



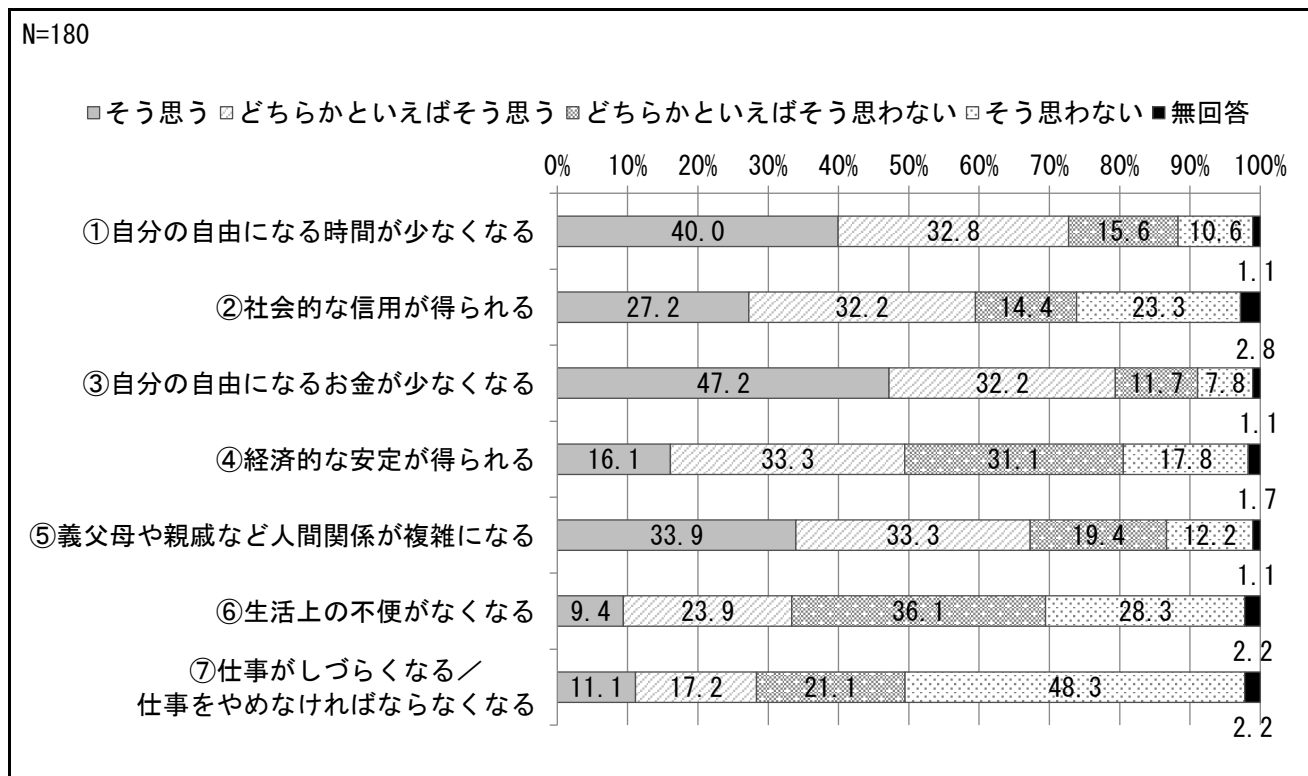
2 結婚について

問 11 結婚についての考え方（各項目○は1つ）

R1



H27

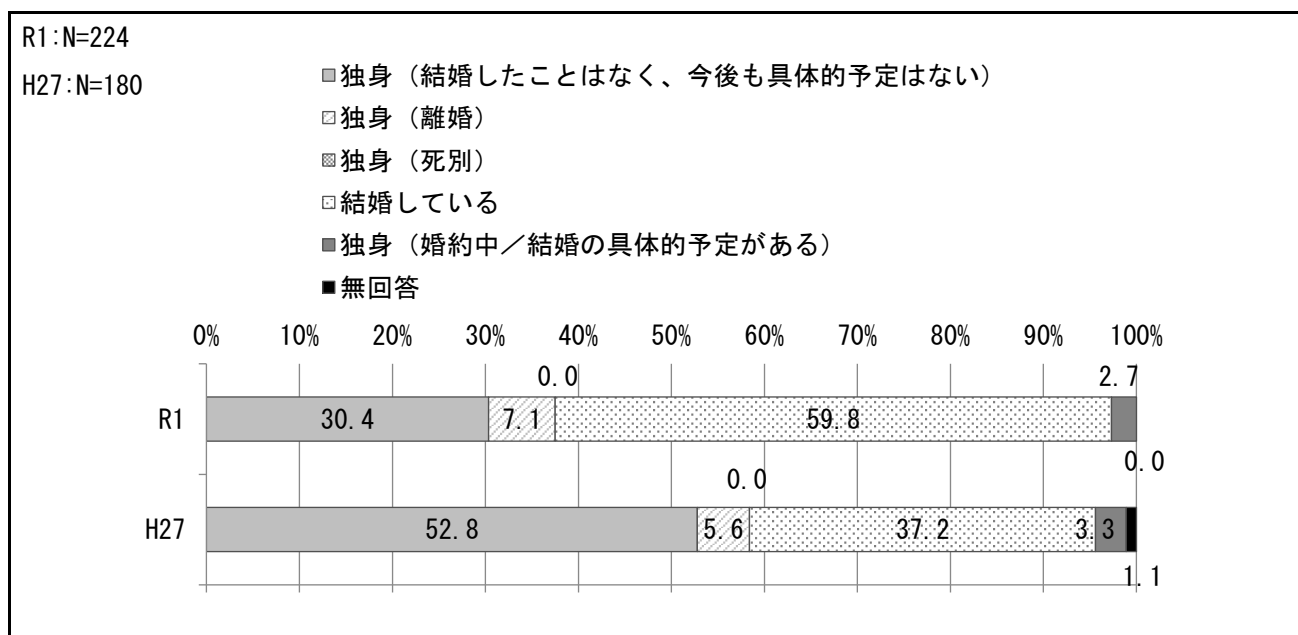


結婚についての考え方は、【③自分の自由になるお金が少なくなる】において「そう思う」が約 41% で最も高く、【①自分の自由になる時間が少なくなる】が約 33%、【⑤義父母や親戚など人間関係が複雑になる】が約 32%などと続いている。

『そう思う』（そう思う+どちらかといえばそう思う）は【③自分の自由になるお金が少なくなる】で約 81%、【①自分の自由になる時間が少なくなる】で約 76%、【⑤義父母や親戚など人間関係が複雑になる】で約 68%、【②社会的信用を得られる】で約 67%となっている。一方、『そう思わない』（そう思わない+どちらかといえばそう思わない）は、【⑦仕事がしづらくなる／仕事をやめなければならなくなる】で約 71%、【⑥生活上の不便が無くなる】で約 62%と高くなっている。

平成 27 年と比較して、大きな変化は見られない。

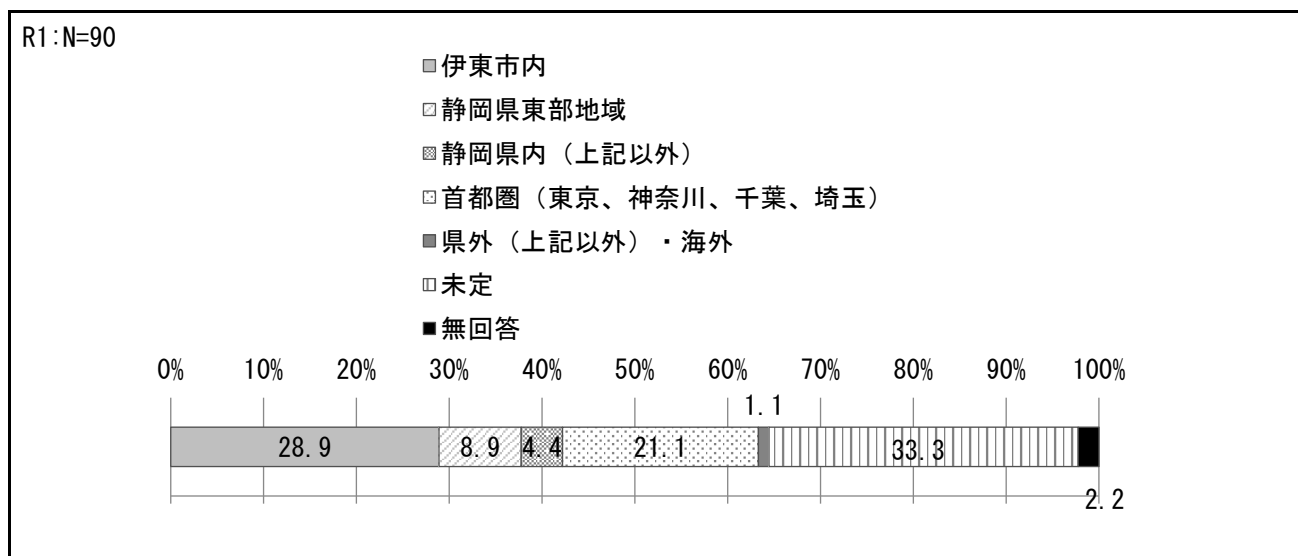
問 12 結婚経験（○は1つ）



結婚経験は、「結婚している」が約60%と最も高く、次いで「独身（結婚したことはなく、今後も具体的予定はない）」が約30%となっている。

平成27年と比較すると、「結婚している」と「独身（結婚したことはなく、今後も具体的予定はない）」の割合が概ね逆転するような結果となっている。

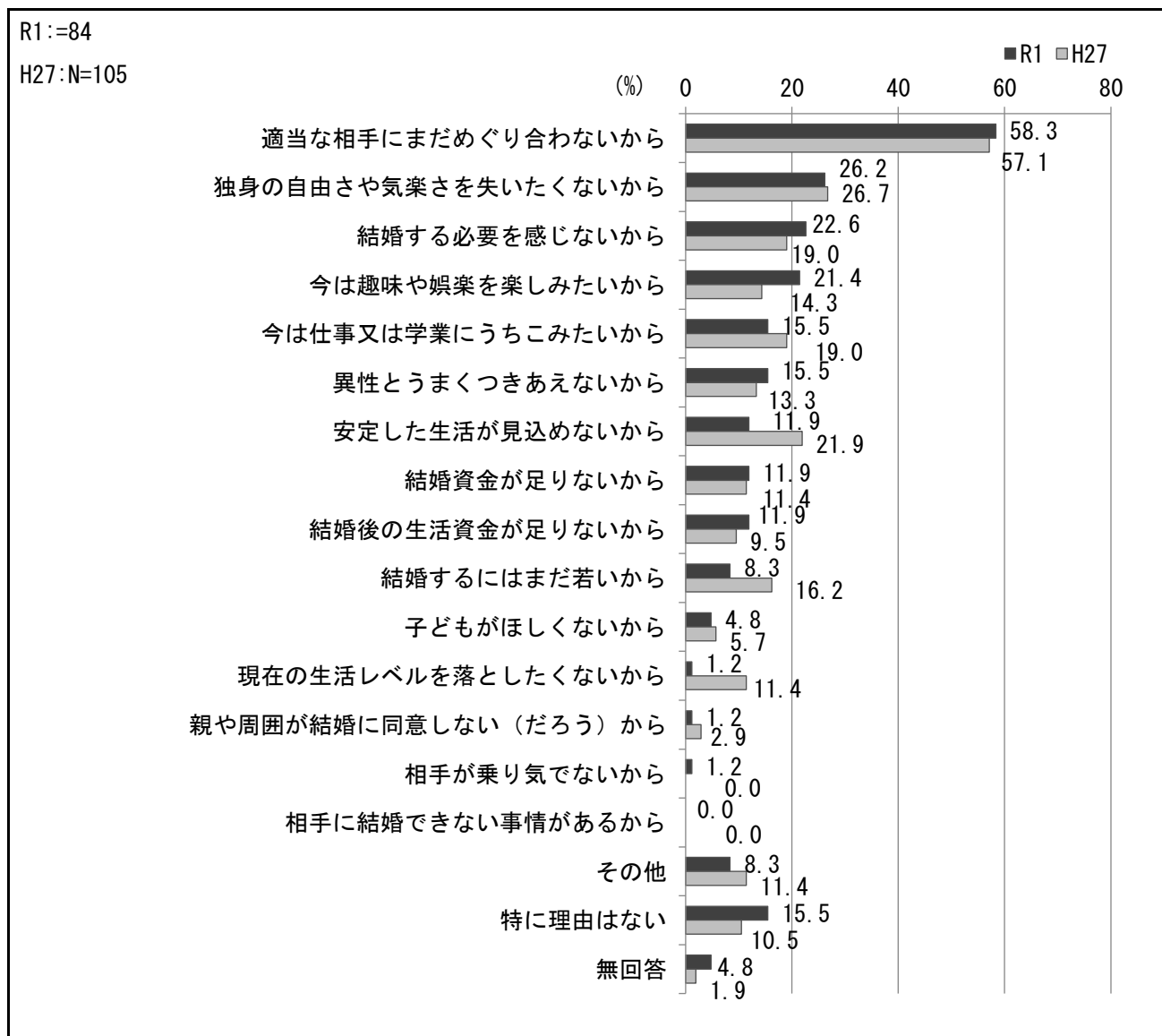
問 12-1 結婚した場合の居住希望地域（○は1つ） ※問12で「結婚している」以外を選んだ方のみ（今回初調査）



結婚した場合の居住希望地域は、「未定」が約33%と最も高く、「伊東市内」が約29%、「首都圏（東京、神奈川、千葉、埼玉）」が約21%などと続いている。

問 12-2 現在独身でいる理由（〇はいくつでも）

※問 12 で「独身（結婚したことはなく、今後も具体的予定なし）、（離婚）、（死別）」を選んだ方のみ

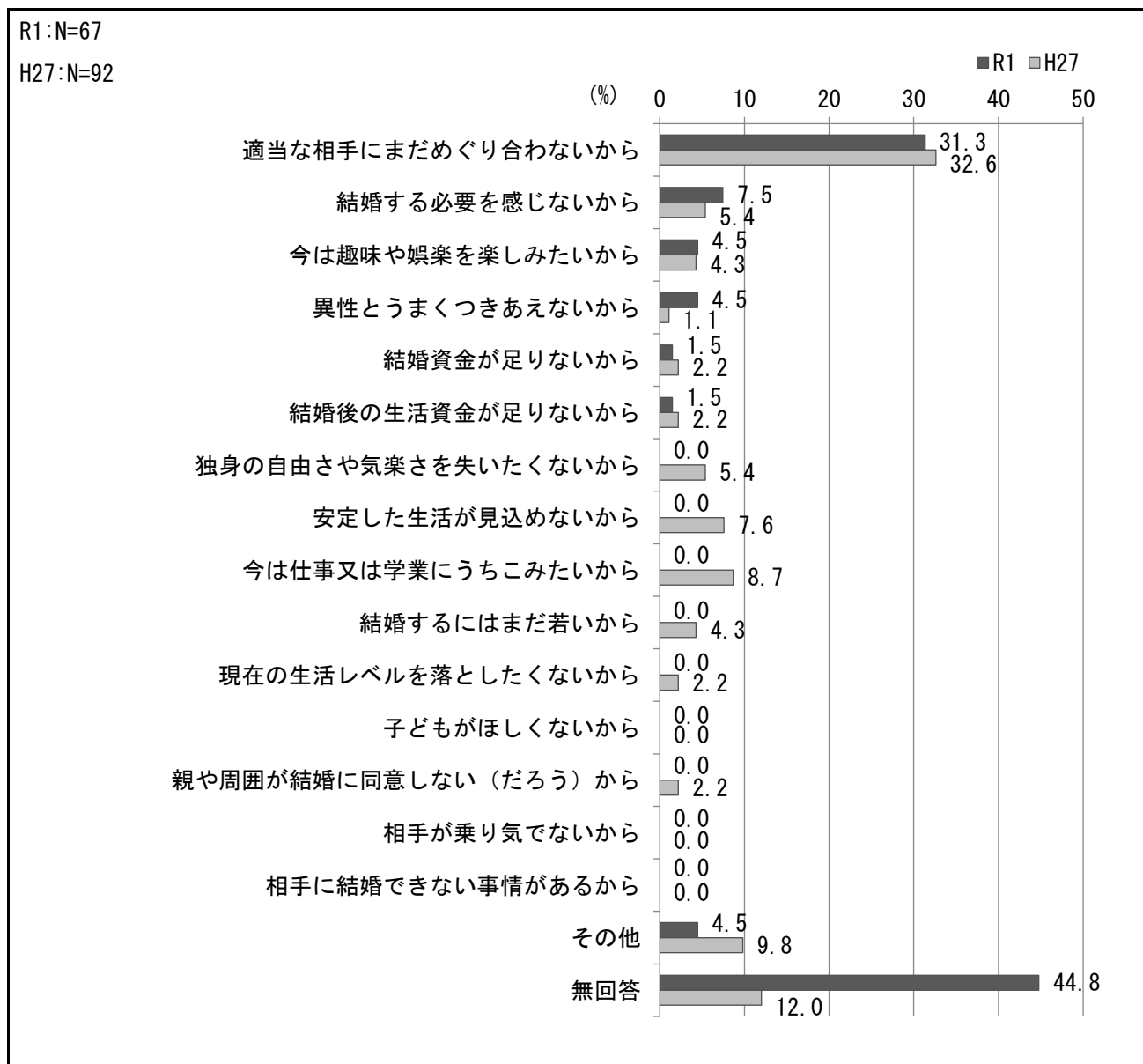


現在独身でいる理由は、「適当な相手にまだめぐり合わないから」が約 58%と突出して高く、「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」が約 26%、「結婚する必要を感じないから」が約 23%などと続いている。

平成 27 年と比較すると、「適当な相手にまだめぐり合わないから」が突出しているのは同様の結果である。個々の選択肢をみると、「今は趣味や娯楽を楽しみたいから」が約 7%の増加、「特に理由はない」が 5%の増加、一方で「安定した生活が見込めないから」が約 10%の減少、「結婚するにはまだ若いから」が約 8%の減少、「現在の生活のレベルを落としたいくないから」が約 10%の減少などとなっている。

問 12-3 問 12-2 で○をつけた理由のうち、最大の理由（○は1つ）

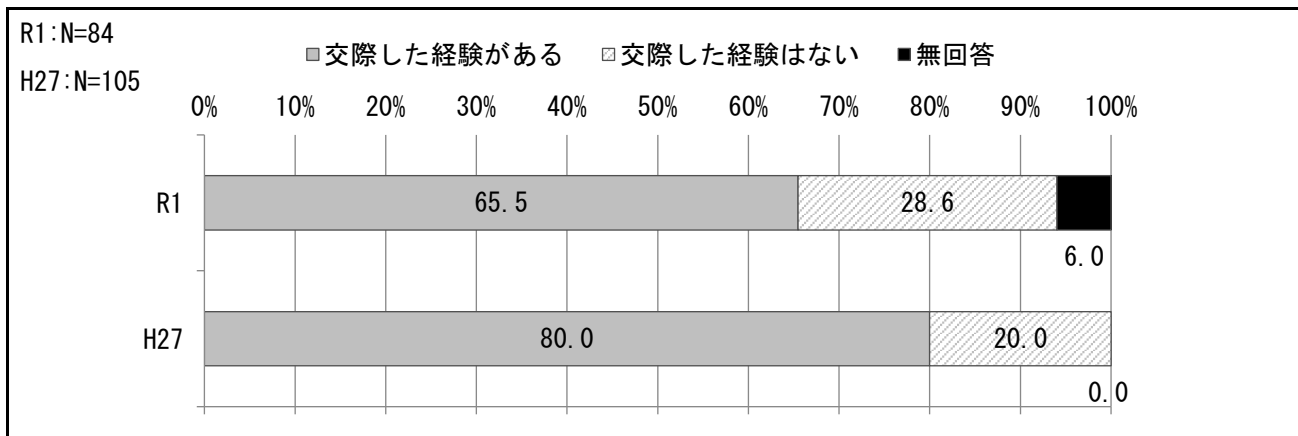
※問 12-2 で「特に理由はない」以外を選んだ方のみ



現在独身でいる最大の理由は、「適当な相手にまだめぐり合わないから」が約31%と突出して高くなっており、平成27年と同様の傾向である。

問 13 交際経験の有無（〇は1つ）

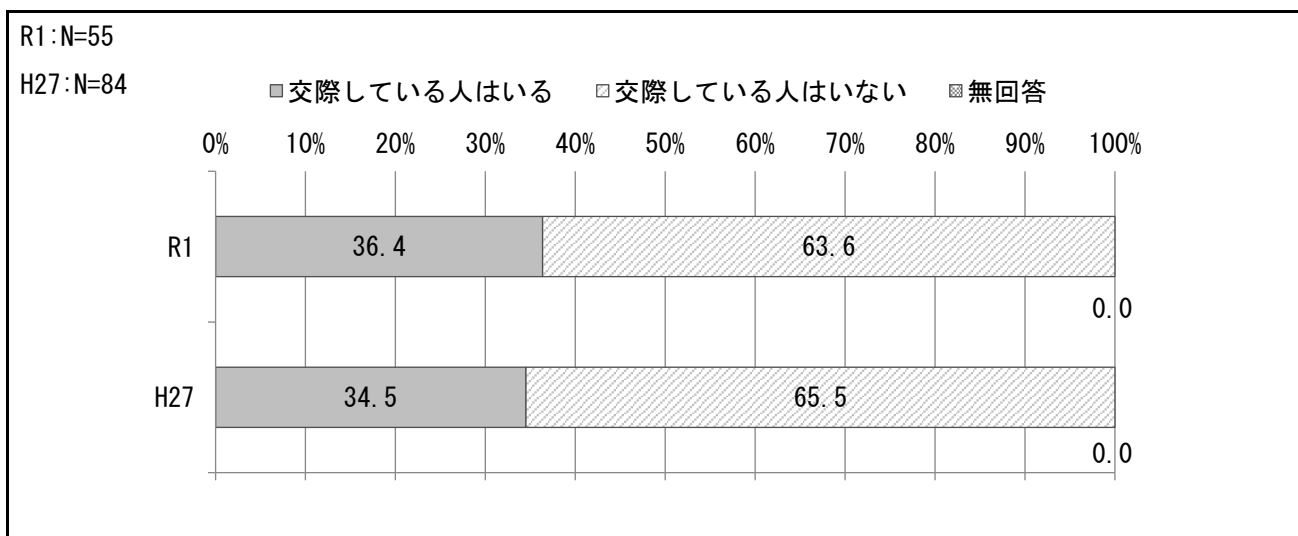
※問 12 で「独身（結婚したことはなく、今後も具体的予定なし）、（離婚）、（死別）」を選んだ方のみ



異性との交際経験の有無は、「交際した経験がある」が約 66%、「交際した経験はない」が約 29%となっている。

平成 27 年と比較すると、「交際した経験はない」が約 9%増加している。

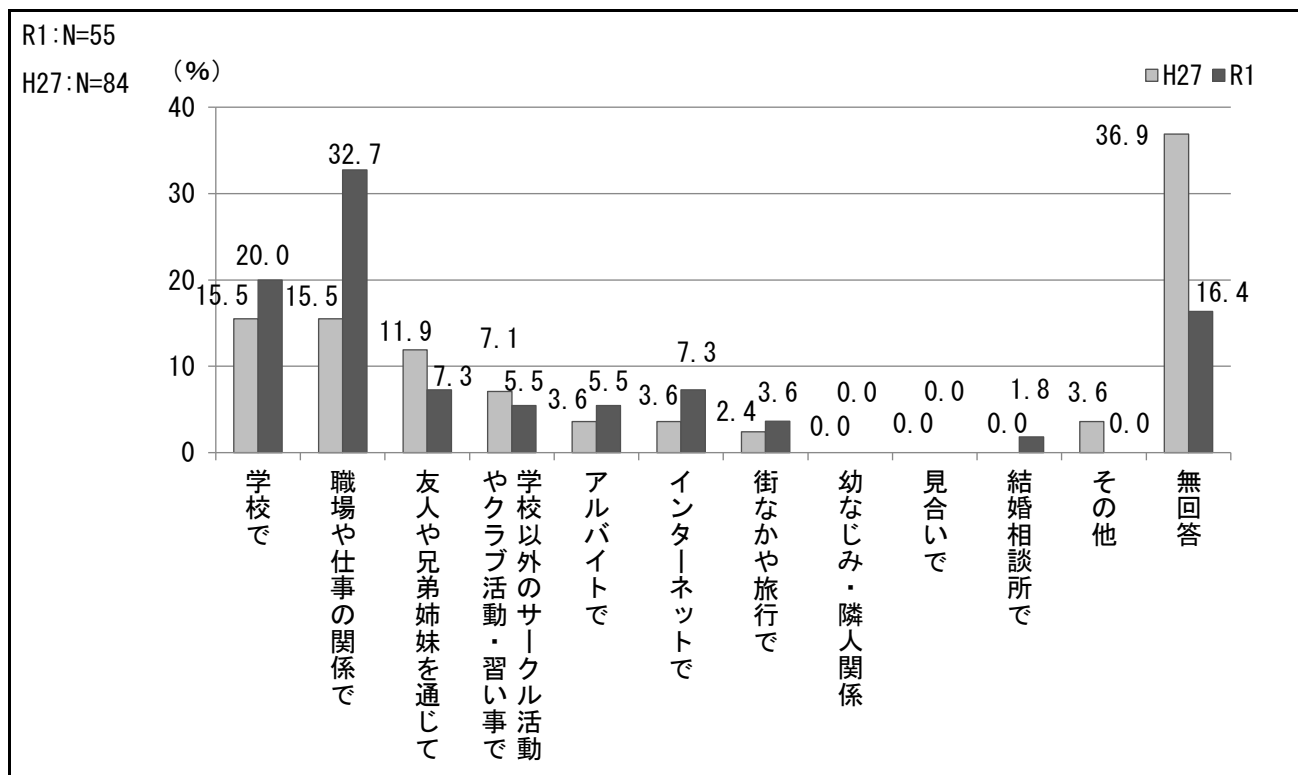
問 13-1 現在交際している人の有無（〇は1つ） ※問 13 で「交際した経験がある」を選んだ方のみ



現在交際している人の有無は、「交際している人はいる」が約 36%、「交際している人はいない」が約 64%となっており、平成 27 年と比較して大きな変化は見られなかった。

問 13-2 現在（または一番最近）の交際相手と知り合ったきっかけ（○は1つ）

※問 13 で「交際した経験がある」を選んだ方のみ

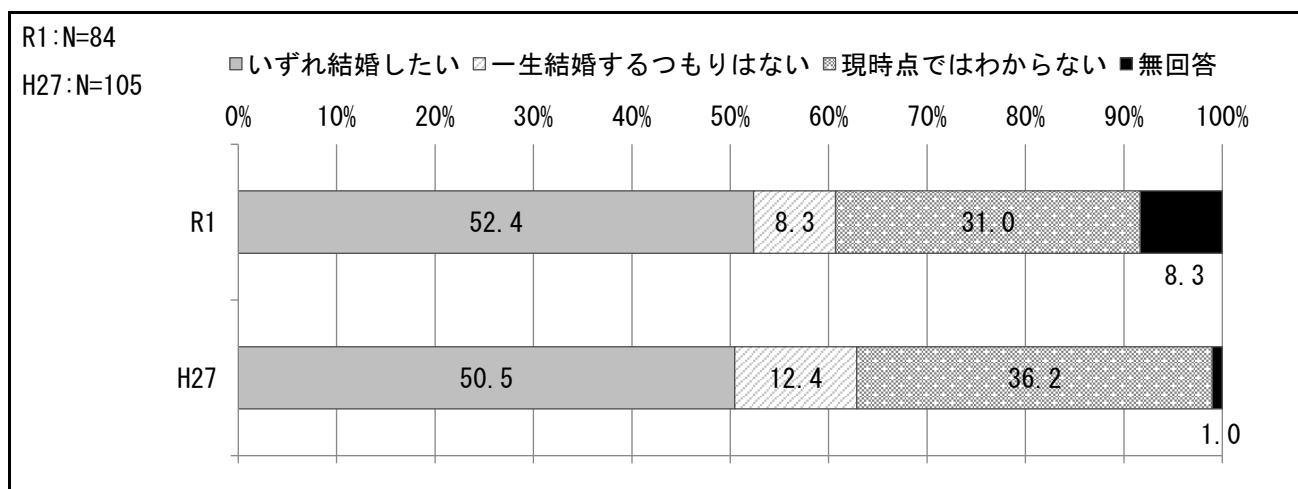


現在（または一番最近）の交際相手と知り合ったきっかけは、「職場や仕事の関係で」が約 33%と突出して高く、次いで「学校で」が 20%などとなっている。

平成 27 年と比較すると、「職場や仕事の関係で」が約 17%の増加となっている。

問 14 自分の一生を通じて考えた場合の、結婚に対する考え（○は1つ）

※問 12 で「独身（結婚したことはなく、今後も具体的予定なし）、（離婚）、（死別）」を選んだ方のみ

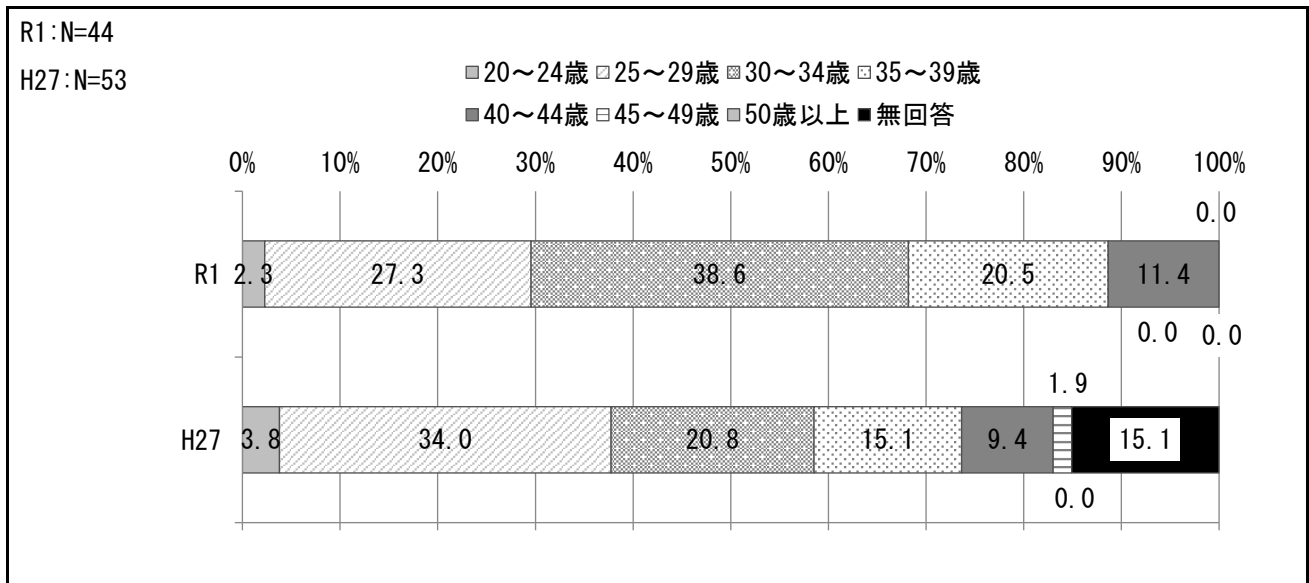


自分の一生を通じて考えた場合の、結婚に対する考えは、「いずれ結婚したい」が約 52%、「一生結婚するつもりはない」が約 8%、「現時点ではわからない」が 31%となっている。

平成 27 年と比較すると、「いずれ結婚したい」が約 2%増加し、「一生結婚するつもりはない」が約 5%、「現時点ではわからない」が約 4%の減少となっている。

問 14-1 結婚したい年齢

※問 14 で「いずれ結婚したい」を選んだ方のみ

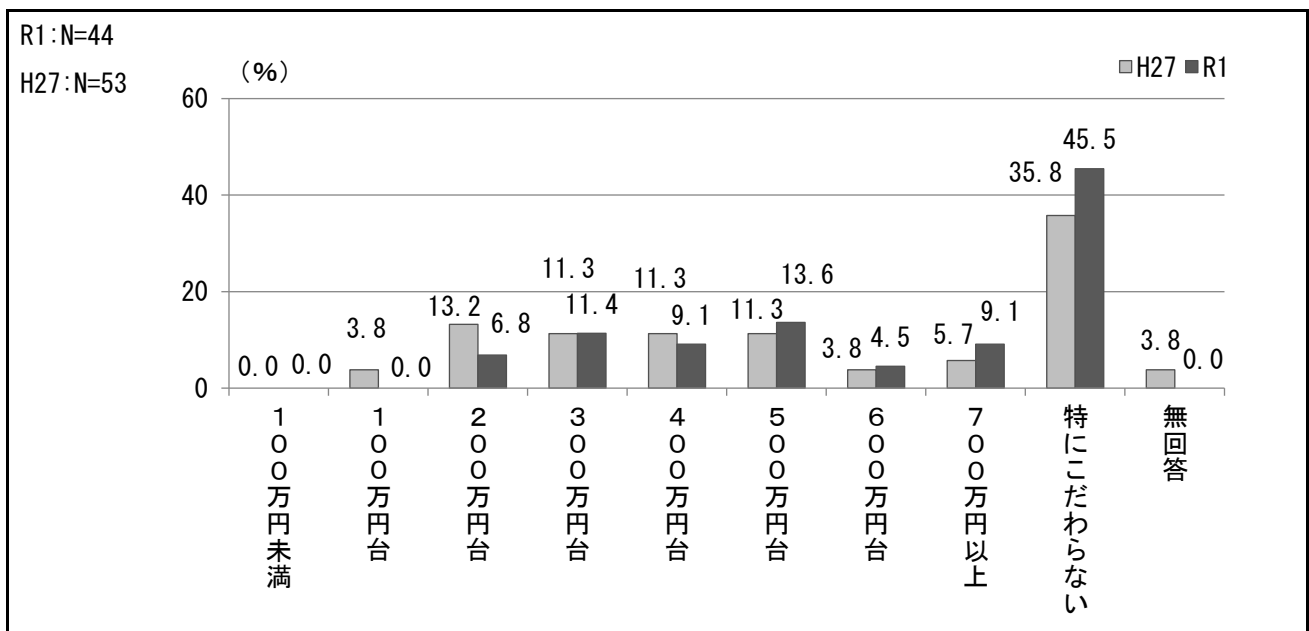


結婚したい年齢は、「30~34歳」が約39%と最も高く、「25~29歳」が約27%、「35~39歳」が約21%などと続いている。

平成27年と比較すると、「30~34歳」「35~39歳」などが増加する一方、「25~29歳」などは減少している。

問 14-2 結婚相手に望む年収（〇は1つ）

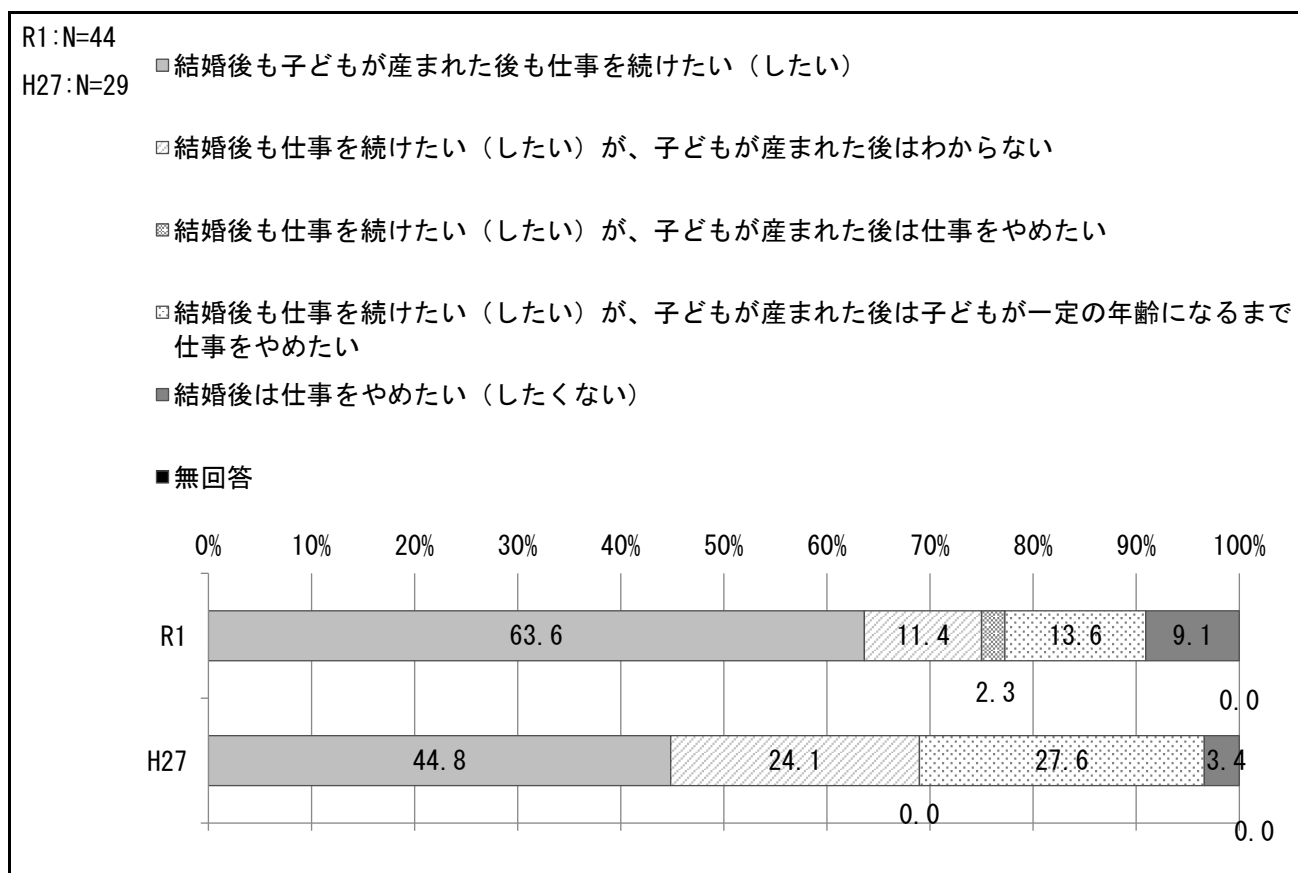
※問 14 で「いずれ結婚したい」を選んだ方のみ



結婚相手に望む年収は、「特にこだわらない」が約46%と突出して高く、「500万円台」が約14%、「300万円台」が約11%などと続いている。

平成27年と比較すると、「特にこだわらない」が約10%増加し、より突出した形となっている。

問 14-3 結婚・出産後の仕事の継続意向（○は1つ） ※問 14 で「いずれ結婚したい」を選んだ方のみ

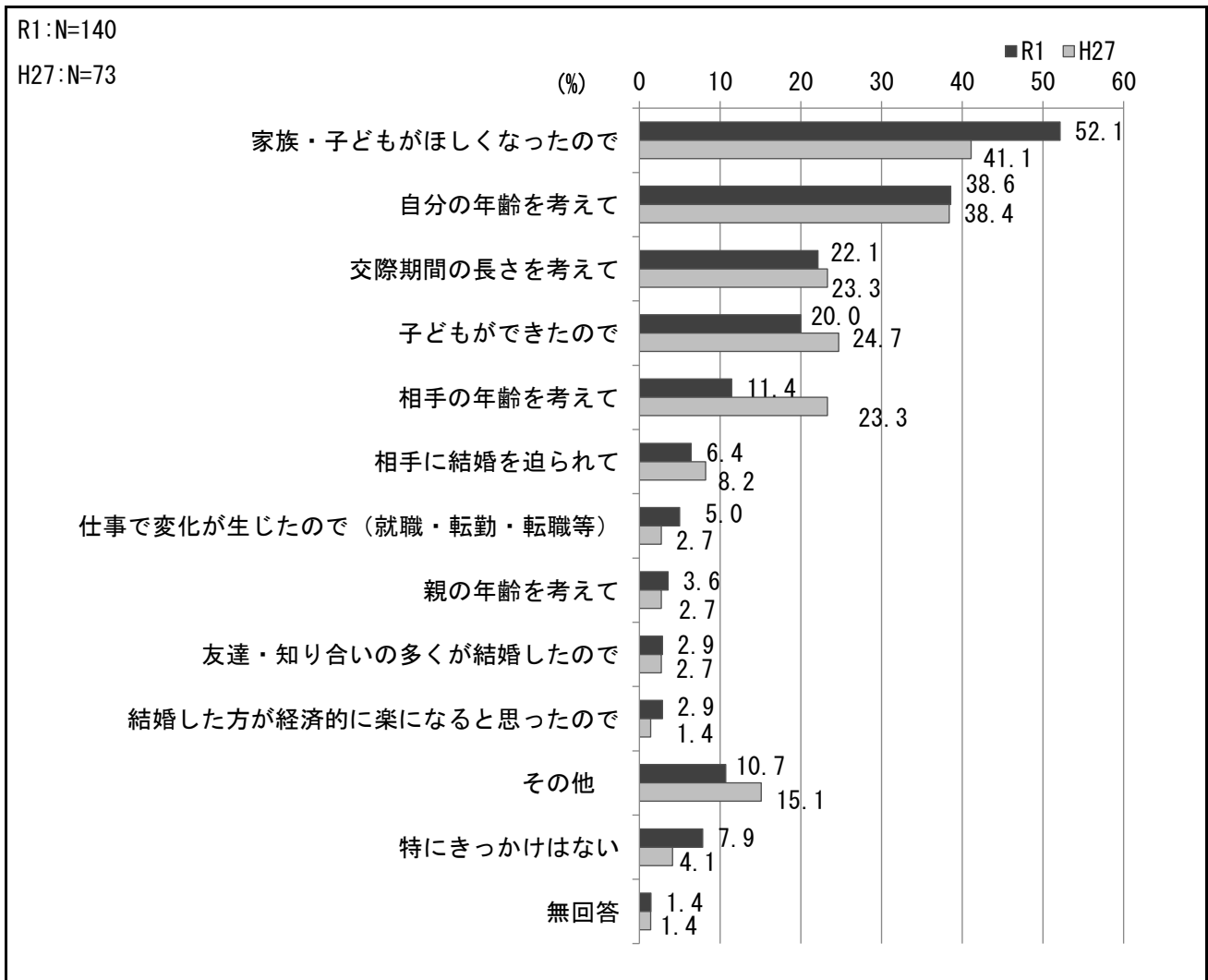


結婚・出産後の仕事の継続意向は、「結婚後も出産後も仕事を続けたい（したい）」が約 64%と突出して高い。次いで、「結婚後も仕事を続けたい（したい）が、出産後は子どもが一定の年齢になるまで仕事をやめたい」が約 14%、「結婚後も仕事を続けたい（したい）が、出産後はわからない」が約 11%などと続いている。

平成 27 年と比較すると、「結婚後も出産後も仕事を続けたい（したい）」が約 19%、「結婚後は仕事をやめたい（したくない）」が約 6%の増加となっており、一方で「結婚後も仕事を続けたい（したい）が、出産後はわからない」が約 13%、「結婚後も仕事を続けたい（したい）が、出産後は子どもが一定の年齢になるまで仕事をやめたい」が 14%の減少となっている。

※問 15～問 19 は、問 12 で「結婚している」、「独身（婚約中／結婚の具体的予定がある）」を選んだ方のみ

問 15 結婚を決めた理由（○はいくつでも）

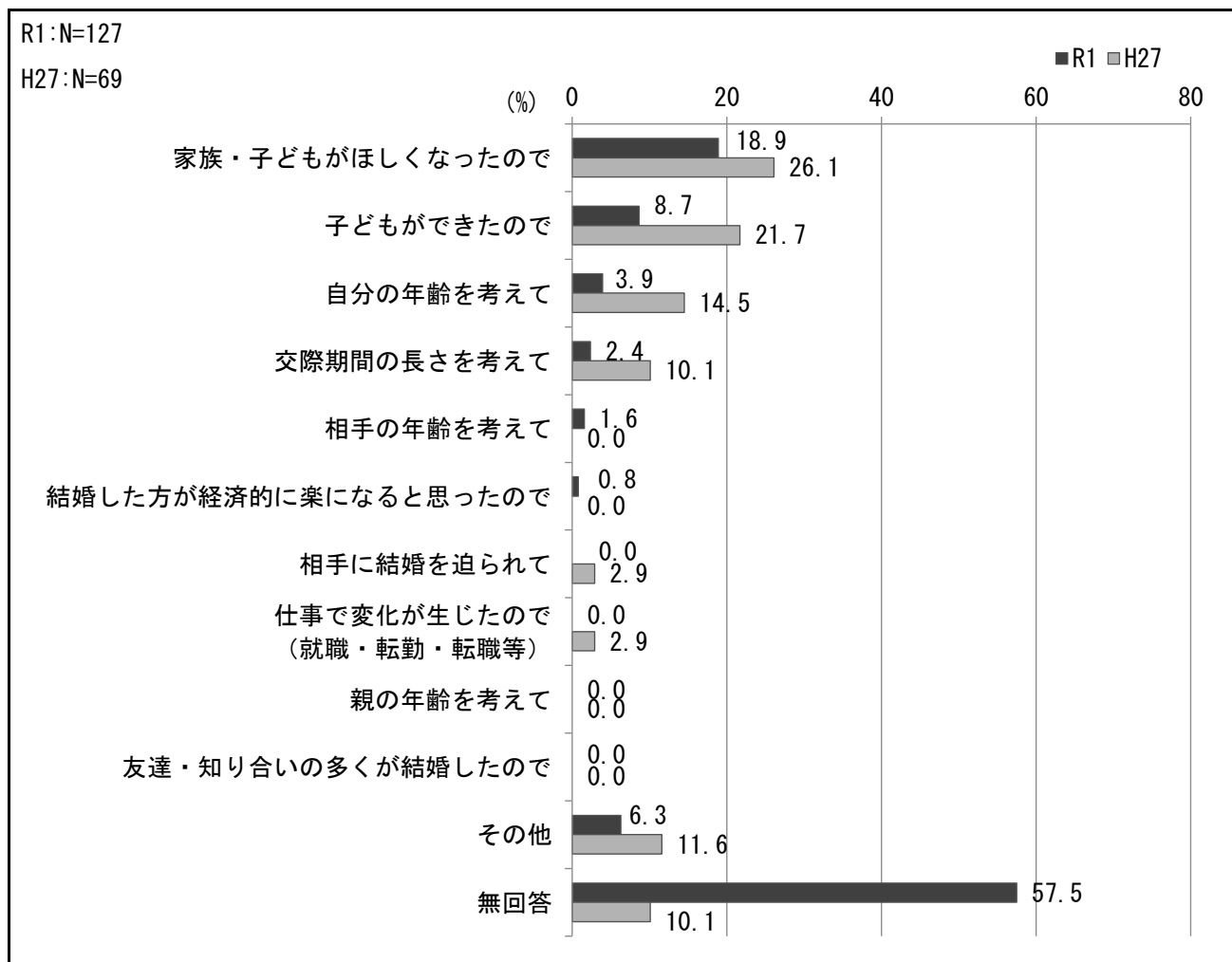


結婚を決めた理由は、「家族・子どもがほしくなったので」が約 52%と最も高く、「自分の年齢を考えて」が約 39%、「交際期間の長さを考えて」が約 22%などと続いている。

平成 27 年と比較すると、大きな違いは見られないが、「家族・子どもがほしくなったので」が約 11%の増加、「子どもができたので」が約 5%の減少、「相手の年齢を考えて」が約 12%の減少などとなっている。

問 15-1 問 15 で○をつけた理由のうち、最大の理由（○は1つ）

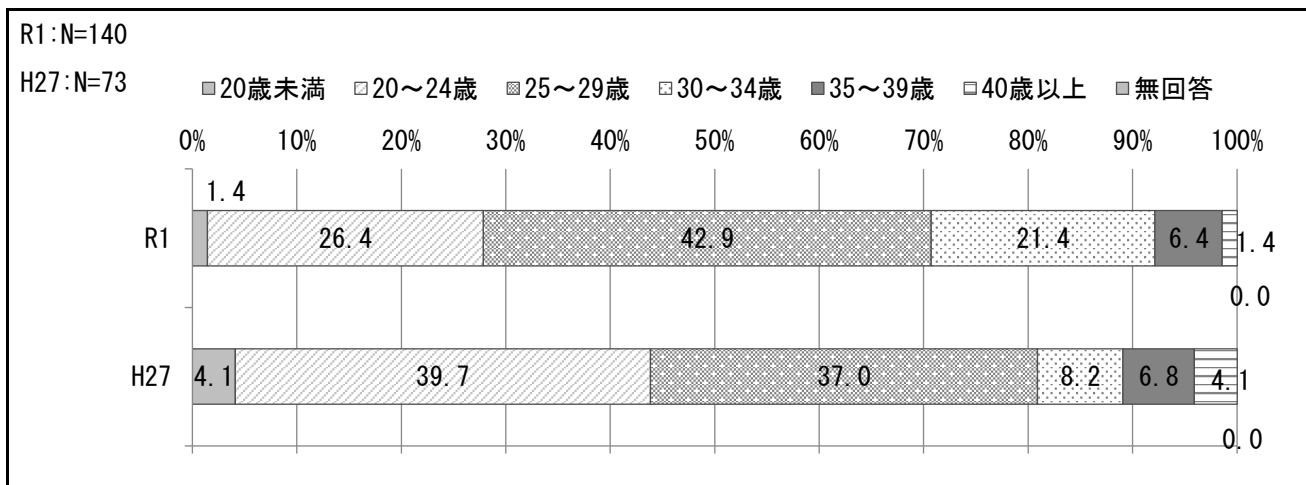
※問 15 で「特にきっかけはない」以外を選んだ方のみ



結婚を決めた最大の理由は、「家族・子どもがほしくなったので」が約 19%と最も高く、「子どもができたので」が約 9%、「その他」が約 6%などと続いている。

平成 27 年と同様に、「家族・子どもがほしくなったので」「子どもができたので」などが高い結果となった。

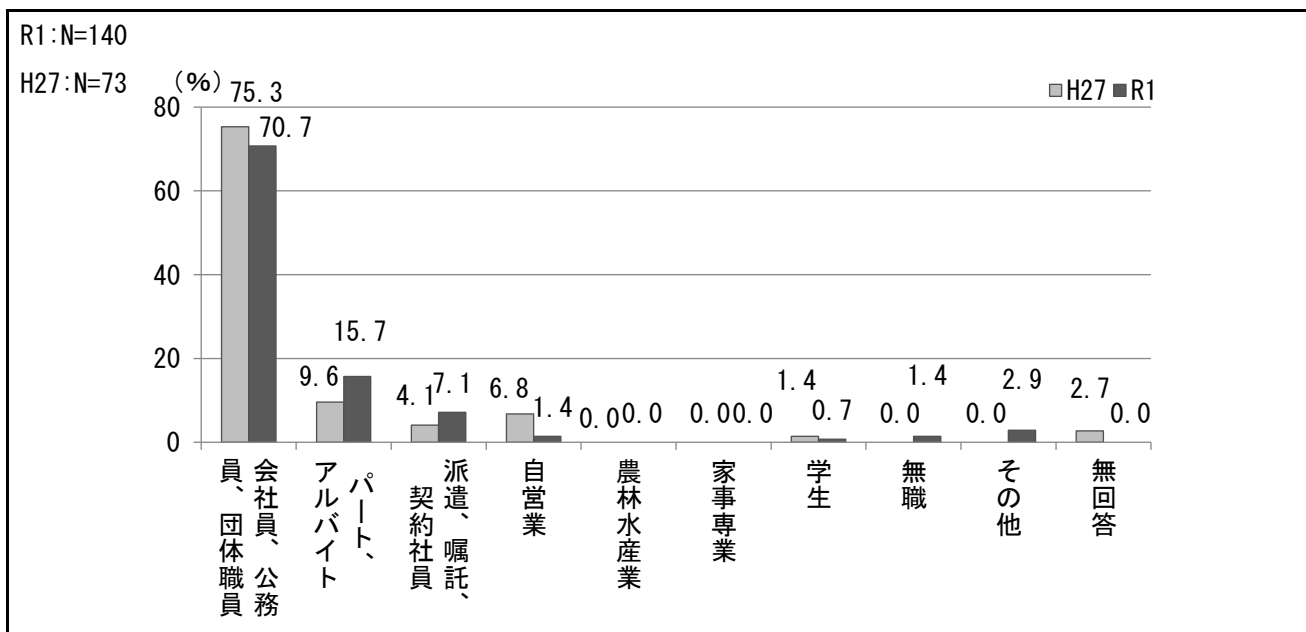
問 16 結婚したとき（または結婚する予定）の年齢（○は1つ）



結婚したとき（または結婚する予定）の年齢は、「25～29歳」が約43%と最も高く、「20～24歳」が約26%、「30～34歳」が約21%などと続いている。

平成27年と比較すると、「25～29歳」が約6%、「30～34歳」が約13%の増加となっており、一方で「20～24歳」が約13%の減少となっている。

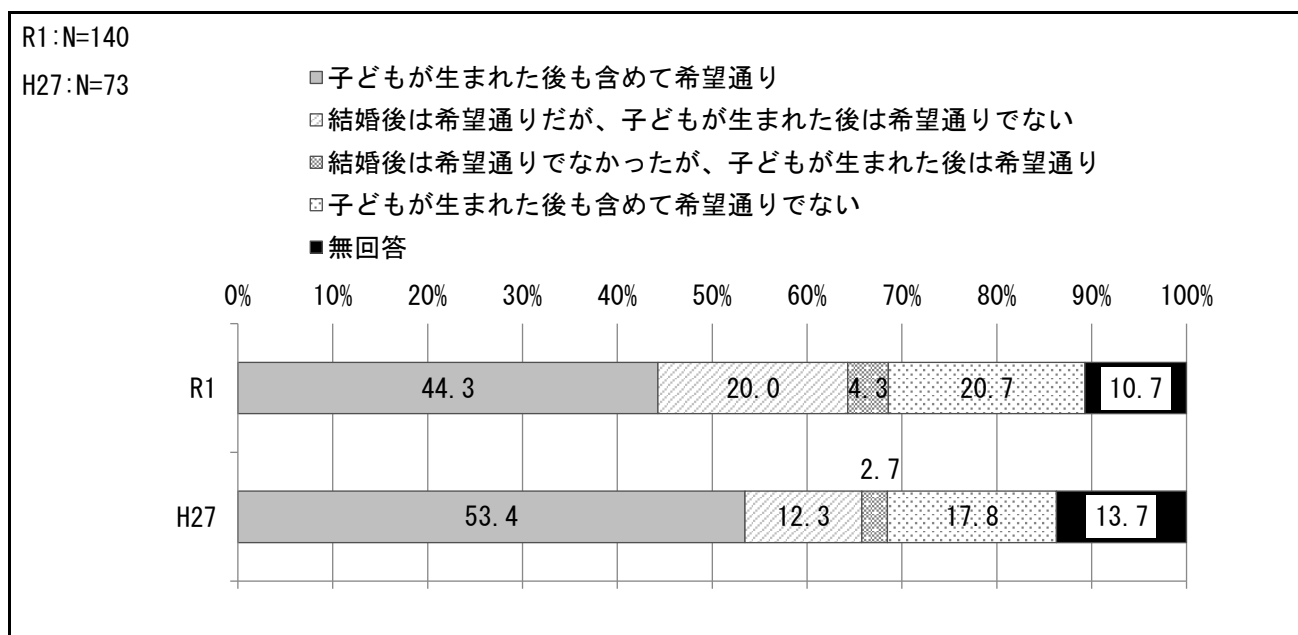
問 17 結婚する直前の職業（○は1つ）



結婚する直前の職業は、「会社員、公務員、団体職員」が約71%と突出して高く、次いで、「パート、アルバイト」が約16%などとなっている。

平成27年と比較すると、「会社員、公務員、団体職員」の割合が高いのは同様であるが、「パート・アルバイト」「派遣、嘱託、契約社員」の割合がやや増加し、「自営業」の割合が減少している。

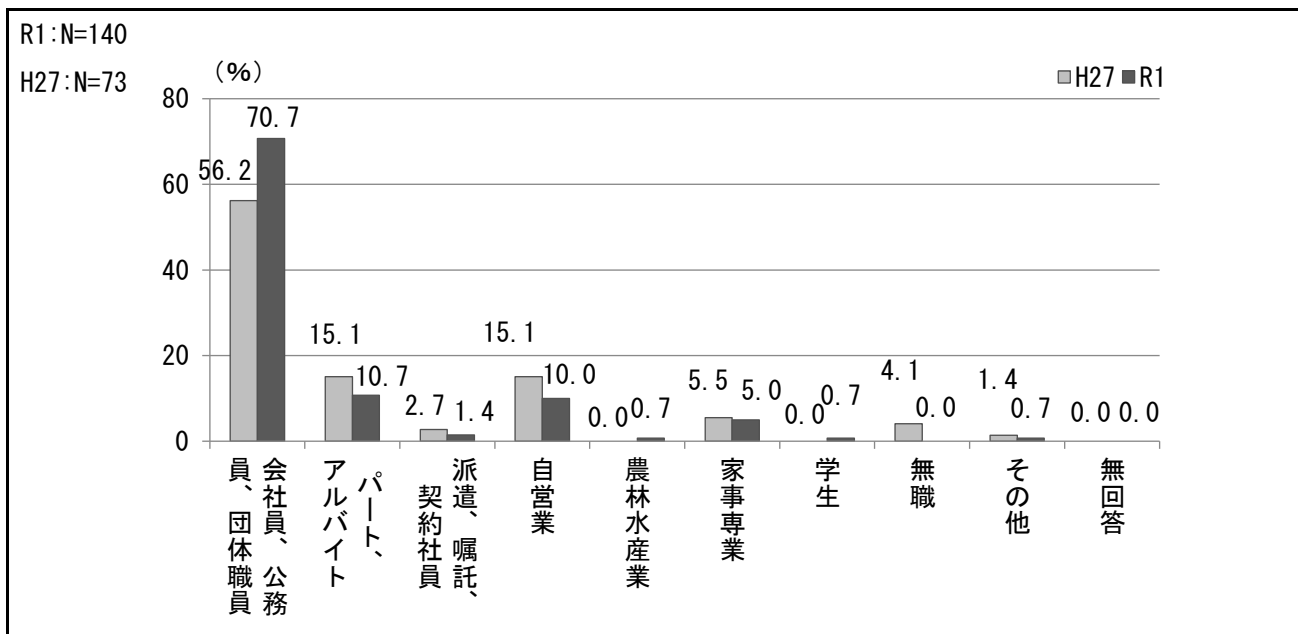
問 18 結婚直後から現在までの就労状況が希望に沿っていたか（○は1つ）



結婚直後から現在までの就労状況が希望に沿っていたかについては、「子どもが生まれた後も含めて希望通り」が約 44%と最も高く、「子どもが生まれた後も含めて希望通りでない」が約 21%、「結婚後は希望通りだが、子どもが生まれた後は希望通りでない」が 20%などと続いている。

平成 27 年と比較すると、「子どもが生まれた後も含めて希望通り」が約 9%減少しており、「結婚後は希望通りだが、子どもが生まれた後は希望通りでない」が約 8%増加している。

問 19 配偶者（または結婚予定の相手）の職業（○は1つ）

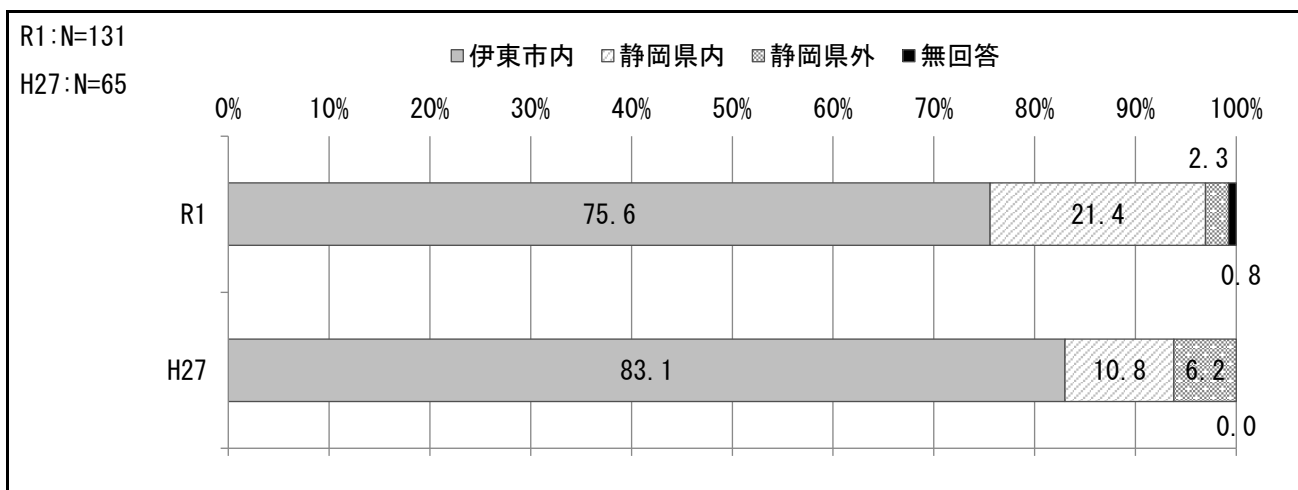


配偶者（または結婚予定の相手）の職業は、「会社員、公務員、団体職員」が約 71%と突出して高く、「パート・アルバイト」が約 11%、「自営業」が 10%などと続いている。

平成 27 年と比較すると、「会社員、公務員、団体職員」が約 15%増加して、より突出した結果となり、「パート・アルバイト」「自営業」は 5%程度減少している。

問 19-1 配偶者（または結婚予定の相手）の勤務先（○は1つ）

※問 19 で「会社員、公務員、団体職員」～「農林水産業」を選んだ方のみ

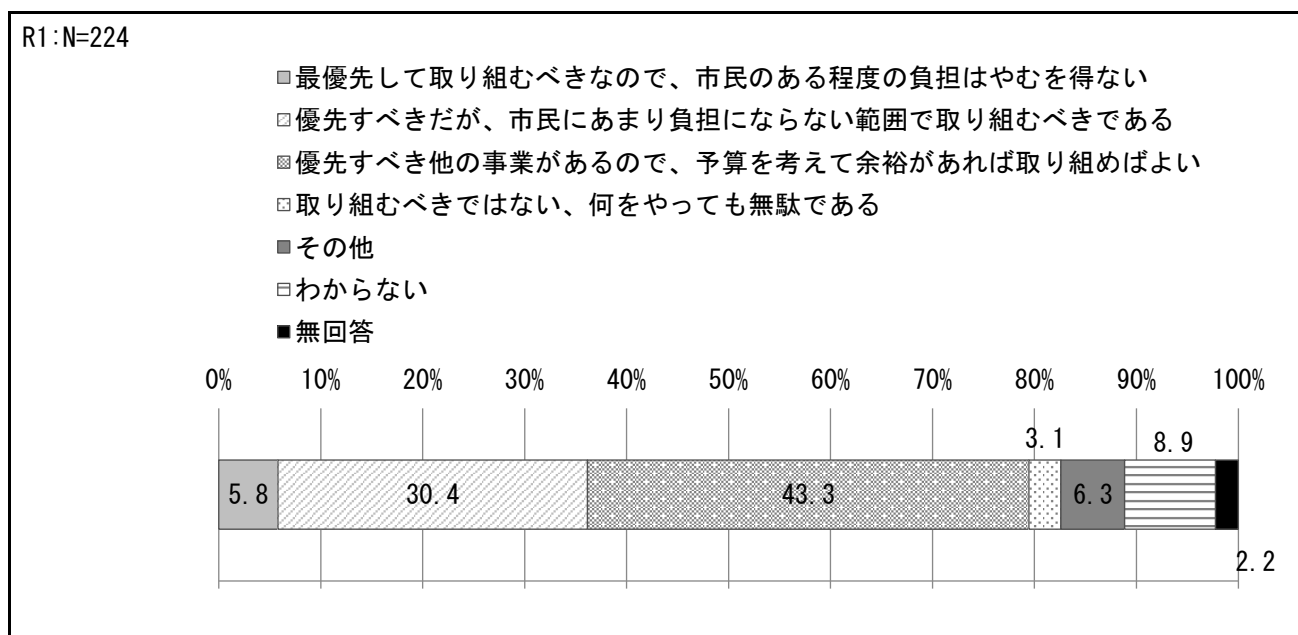


配偶者（または結婚予定の相手）の勤務先は、「伊東市内」が約 76%、「静岡県内」が約 21%などと続いている。

平成 27 年と比較すると、「静岡県内」が約 11%増加し、「伊東市内」が約 8%、「静岡県外」が約 4%の減少となっている。

問 20 行政による結婚支援の取組についての考え (○は1つ)

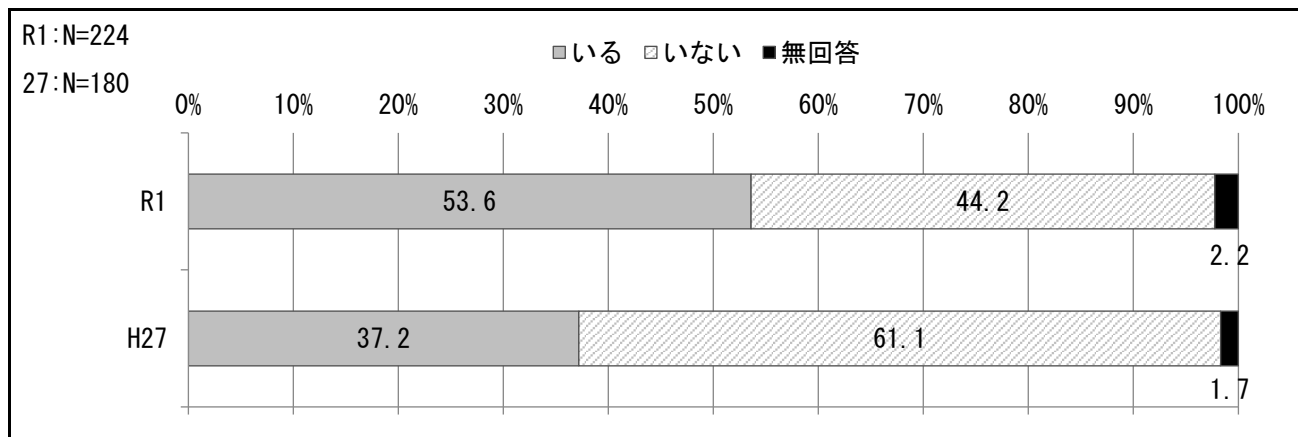
(今回初調査)



行政が結婚支援に取り組むことについて、「優先すべき他の事業があるので、予算を考えて余裕があれば取り組めばよい」が約43%と最も高く、次いで「優先すべきだが、市民にあまり負担にならない範囲で取り組むべきである」が約30%などとなっている。

3 出産・子育てについて

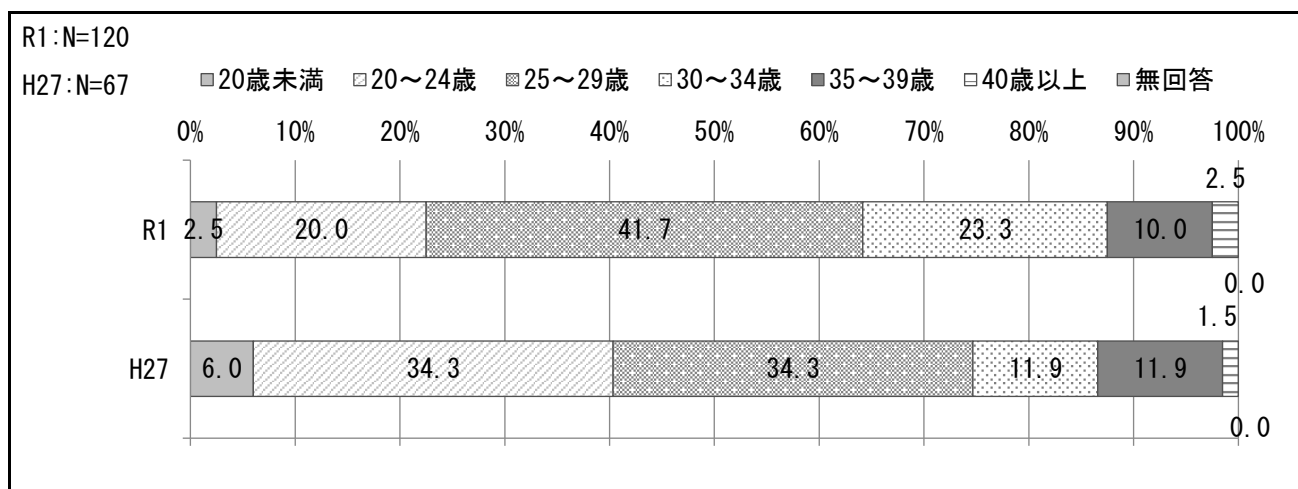
問 21 子どもの有無（○は1つ）



子どもの有無は、「いる」が約54%、「いない」が約44%となっている。
平成27年と比較すると、今回は、子どもがいる方が半数を超える結果となった。

問 21-1 最初の子どもが産まれた時の年齢

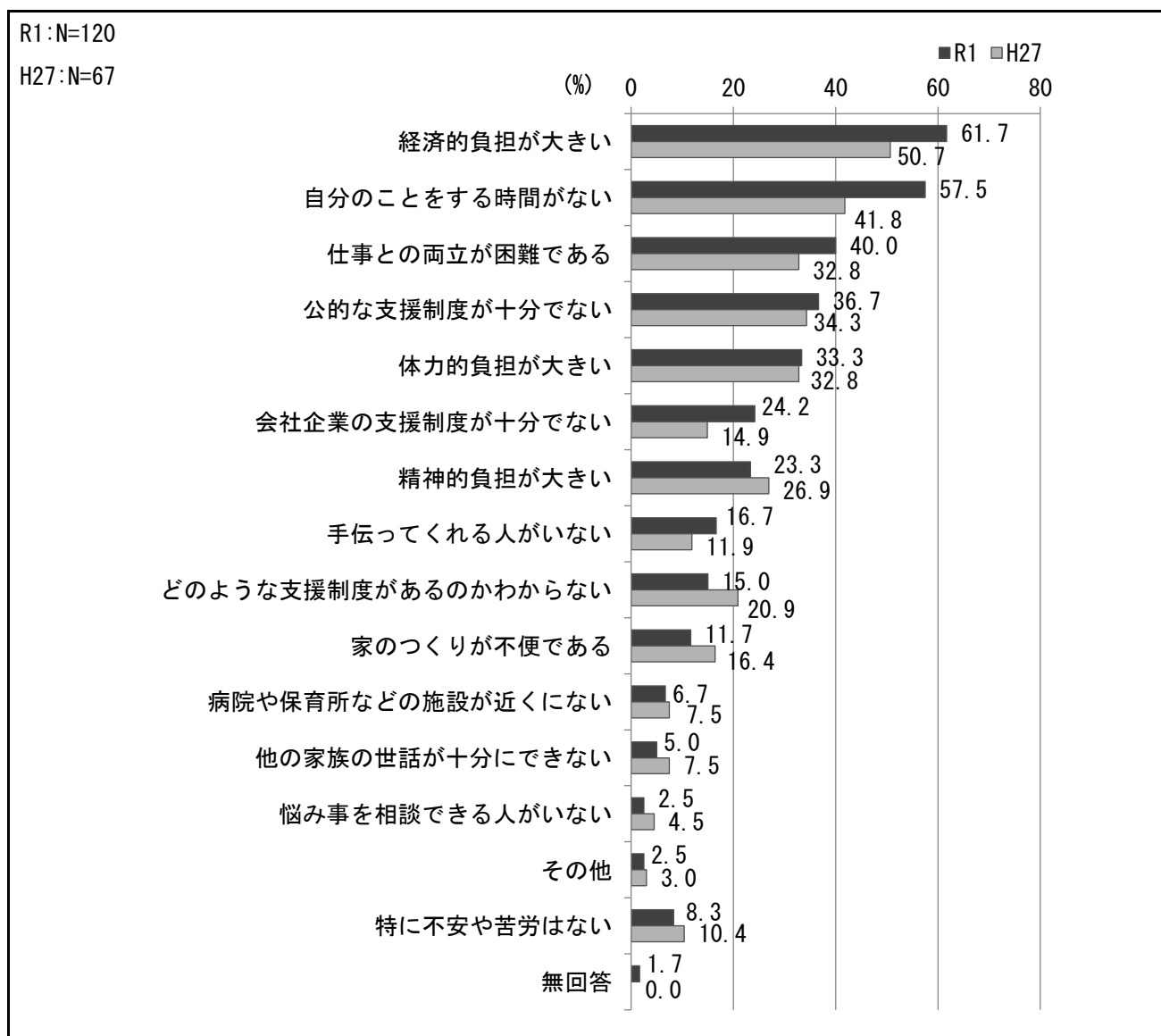
※問21で「いる」を選んだ方のみ



最初の子どもが産まれた時の年齢は、「25～29歳」が約42%と最も高く、「30～34歳」が約23%、「20～24歳」が20%などと続いている。

平成27年と比較すると、「30～34歳」が約12%、「25～29歳」が約7%増加しており、一方で「20～24歳」は約14%減少している。

問 21-2 出産、育児に際しての不安や苦勞（〇はいくつでも） ※問 21 で「いる」を選んだ方のみ

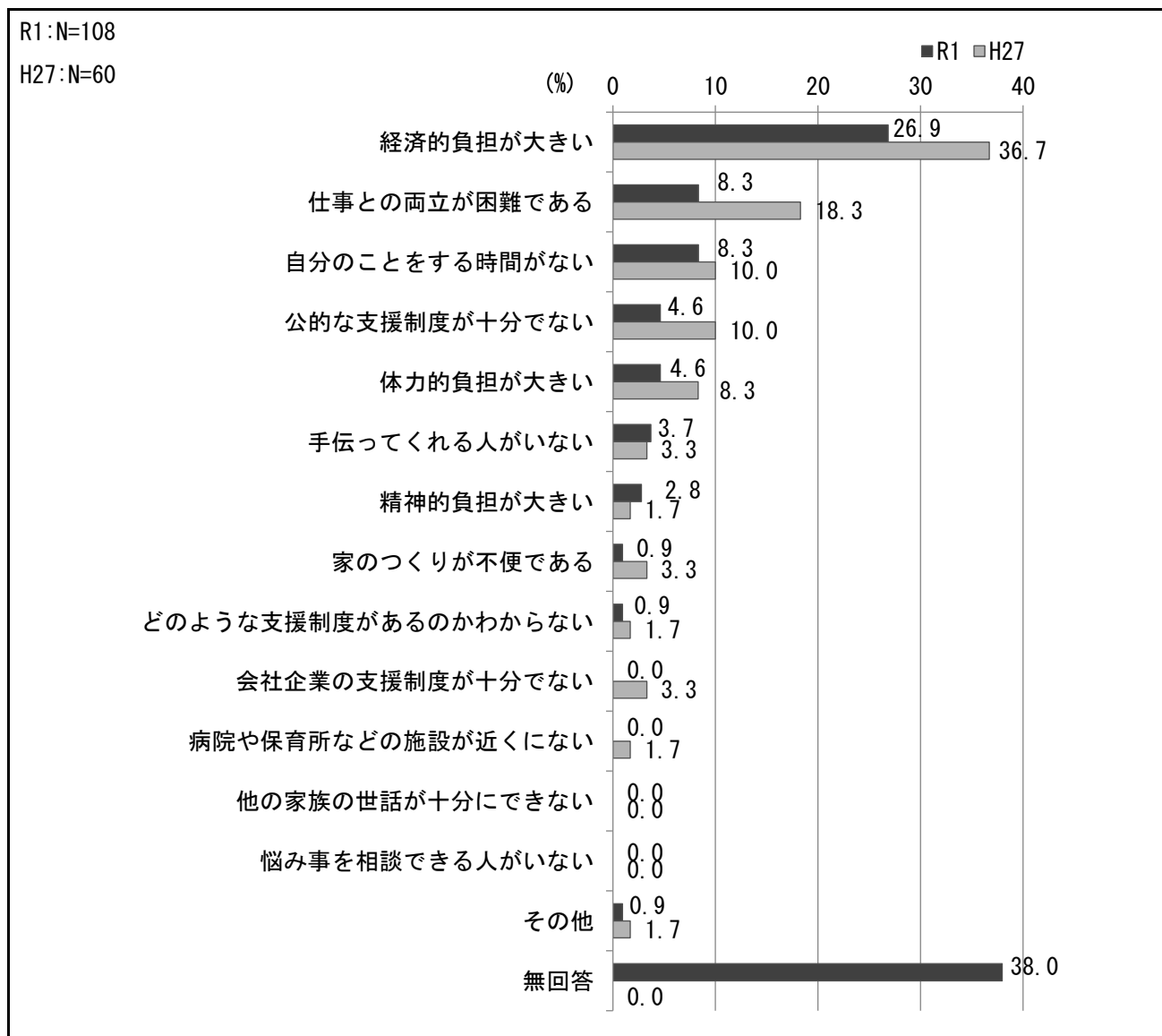


出産、育児に際しての不安や苦勞は、「経済的負担が大きい」が約 62%と最も高く、「自分のことをする時間がない」が約 58%、「仕事との両立が困難である」が 40%などと続いている。

平成 27 年と比較すると、「経済的負担が大きい」「自分のことをする時間がない」「公的な支援制度が十分でない」「仕事との両立が困難である」「会社企業の支援制度が十分でない」「手伝ってくれる人が近くにいない」などを選択する方の割合が増加している。

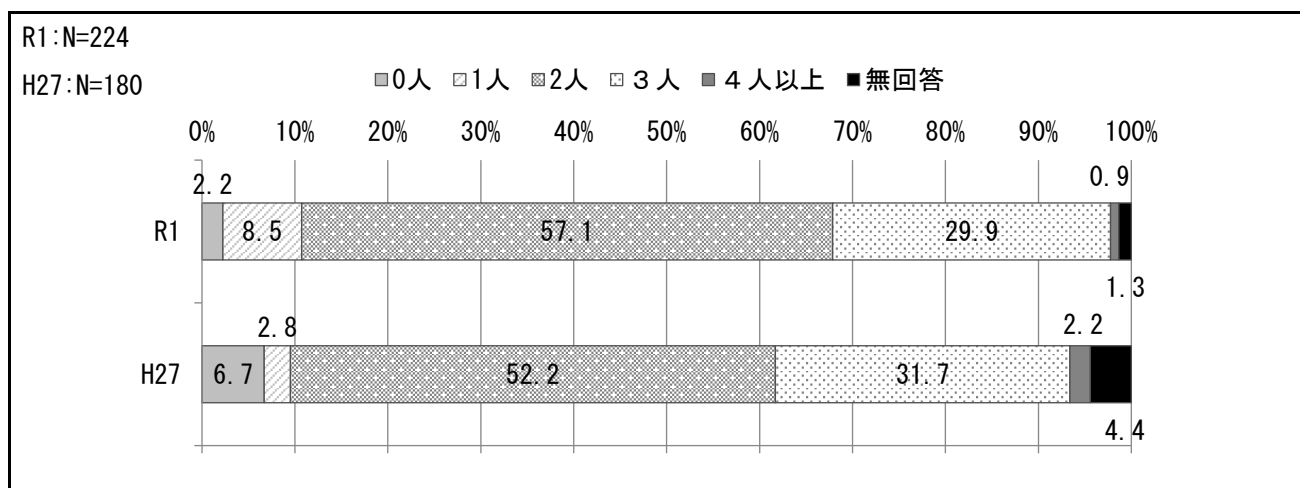
問 21-3 で○をつけた理由のうち、最大の不安や苦勞（○は1つ）

※問 21-2 で「特に不安や苦勞はない」以外を選んだ方のみ



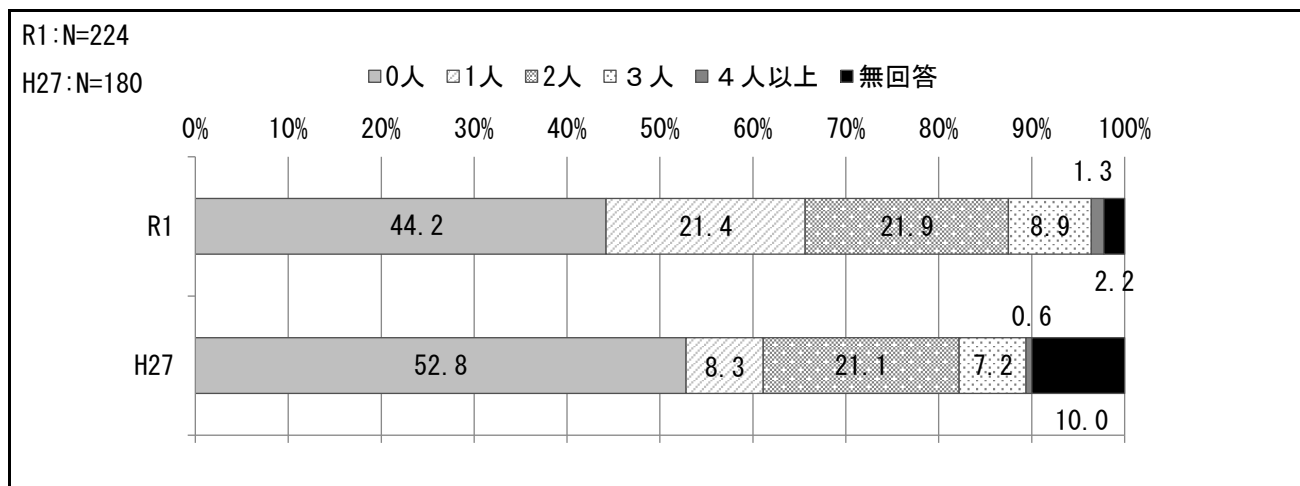
出産、育児に際しての最大の不安や苦勞は、「経済的負担が大きい」が約 27%と突出して高く、平成 27 年と同様の傾向である。

問 22-1 ①理想の子どもの人数（〇は1つ）



理想の子どもの人数は、「2人」が約57%と最も高く、次いで「3人」が約30%となっている。平成27年と比較すると「1人」「2人」が若干増加し、「0人」「3人」「4人」が若干減少している。

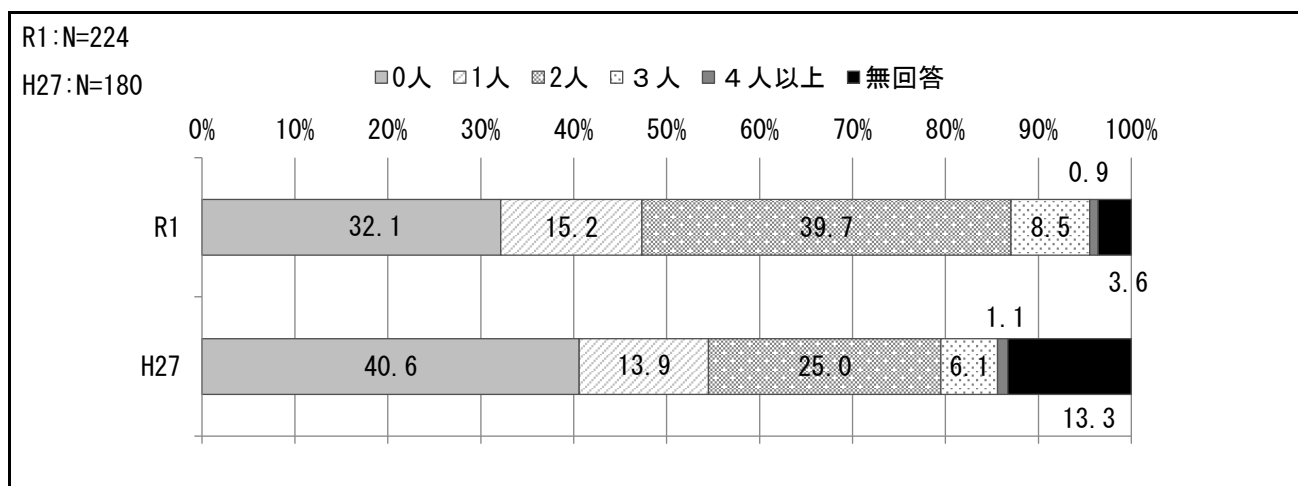
問 22-2 ②現在の子どもの人数（〇は1つ）



現在の子どもの人数は、「0人」が約44%と最も高く、「2人」が約22%、「1人」が約21%などと続いている。

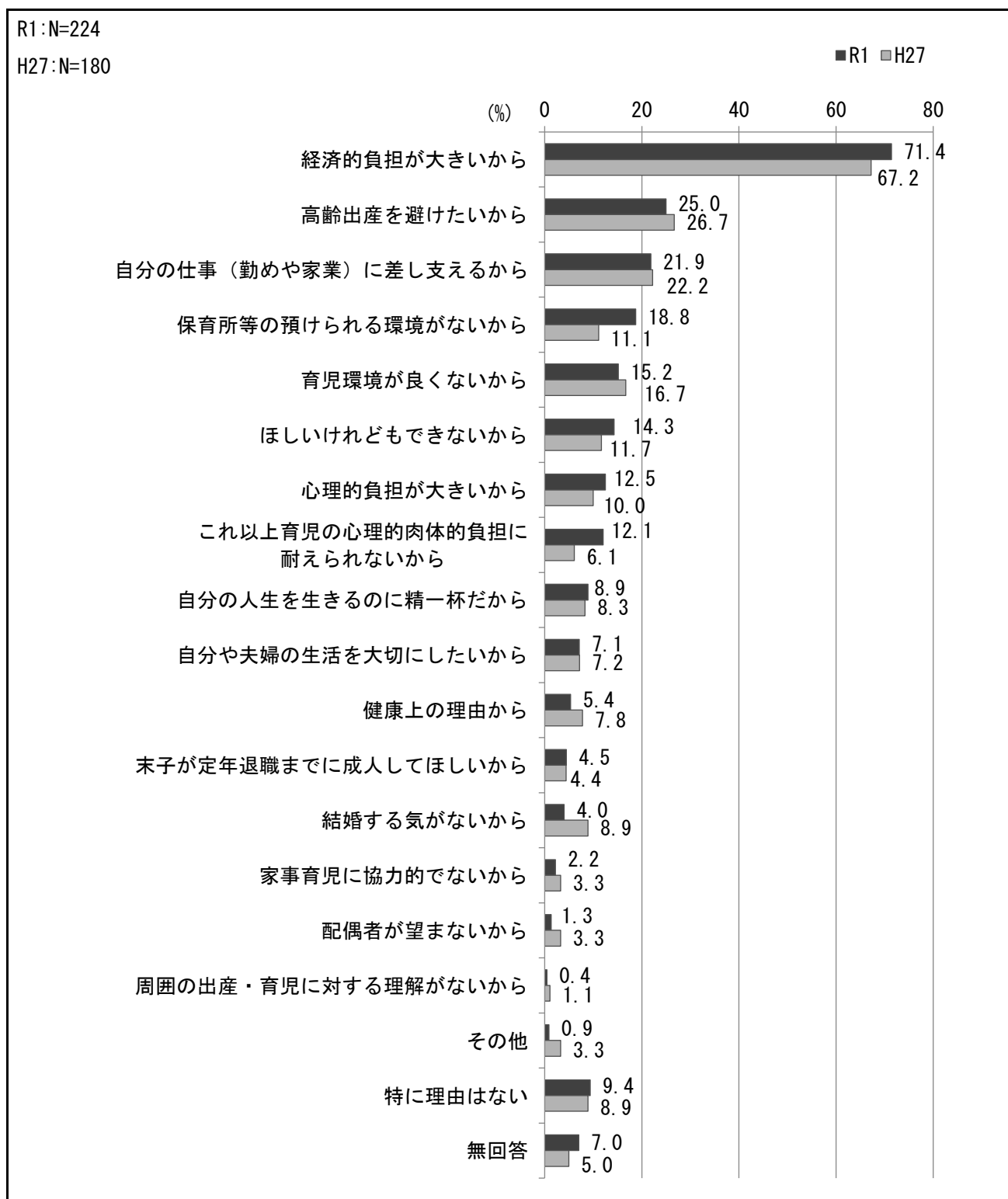
平成27年と比較すると、目立ったところでは、「1人」が約13%増加し、「0人」が約9%減少している。

問 22-3 ③今後希望する子どもの人数（〇は1つ）



今後希望する子どもの人数は、「2人」が約40%と最も高く、次いで「0人」が約32%となっている。平成27年と比較すると、目立ったところでは、「2人」が約15%増加し、「0人」が約9%減少している。

問 23 理想的な子どもの人数を実現する際に問題となると考えられる理由（〇はいくつでも）

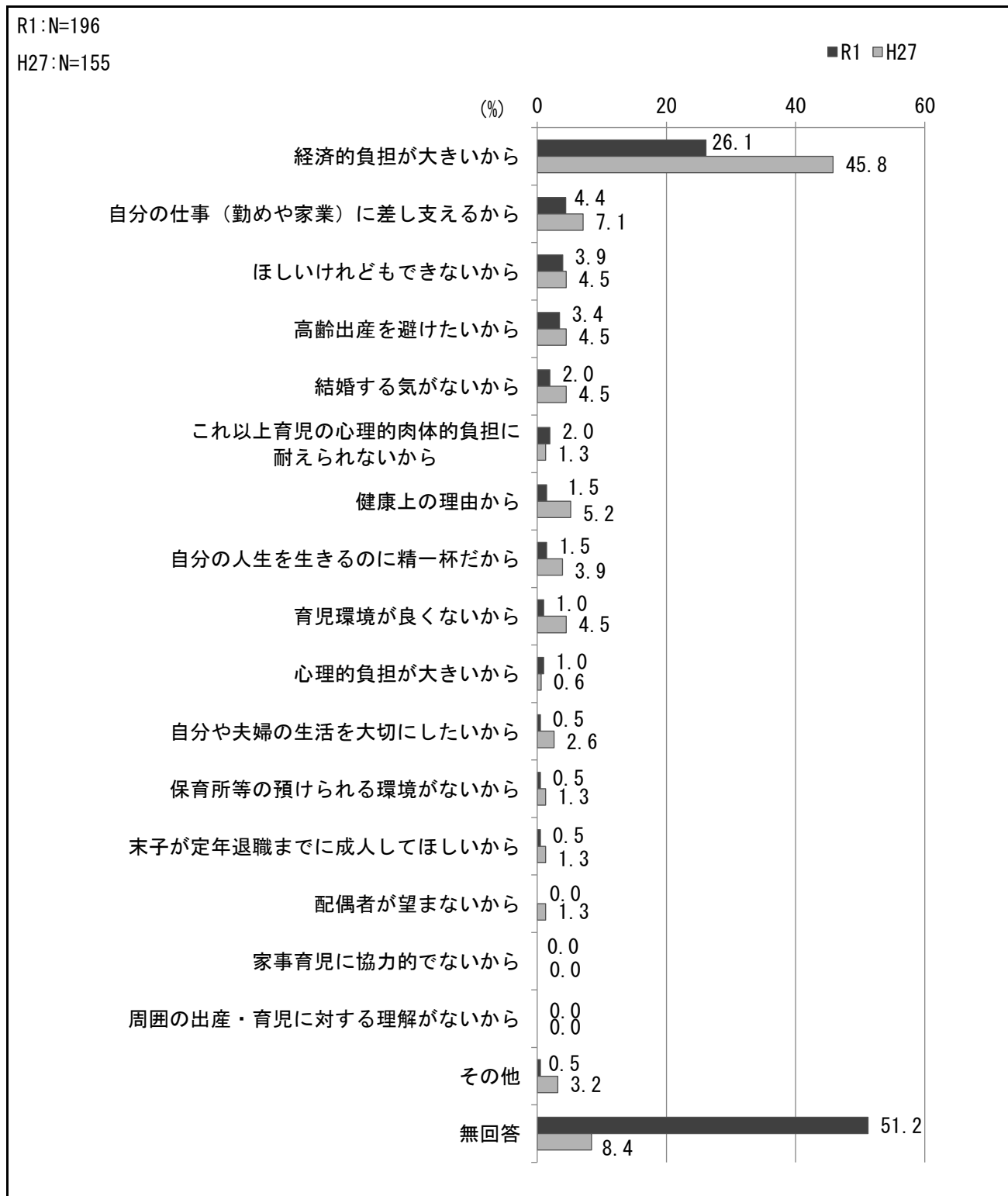


理想的な子どもの人数を実現する際に問題となると考えられる理由は、「経済的負担が大きいから」が約 71%と突出して高く、「高齢出産を避けたいから」が 25%、「自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから」が約 22%などと続いている。

平成 27 年と比較すると、ほぼ同様の傾向となっている。目立ったところでは「保育所等の預けられる環境がないから」が約 8%、「これ以上育児の心理的肉体的負担に耐えられないから」が 6%の増加となっている。

問 23-1 問 23 で○をつけた理由のうち、最大の理由（○は1つ）

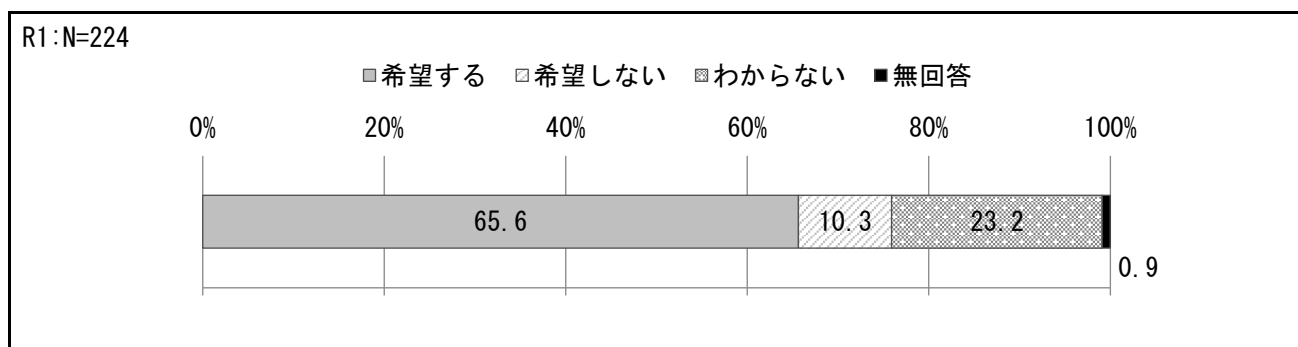
※問 23 で「特に理由はない」以外を選んだ方のみ



理想的な子どもの人数を実現する際に問題となると考えられる最大の理由は、「経済的負担が大きいから」が約 26%と突出して高く、平成 27 年と同様の傾向となっている。

問 24 育児休業の取得や短時間勤務等の希望（○は1つ）

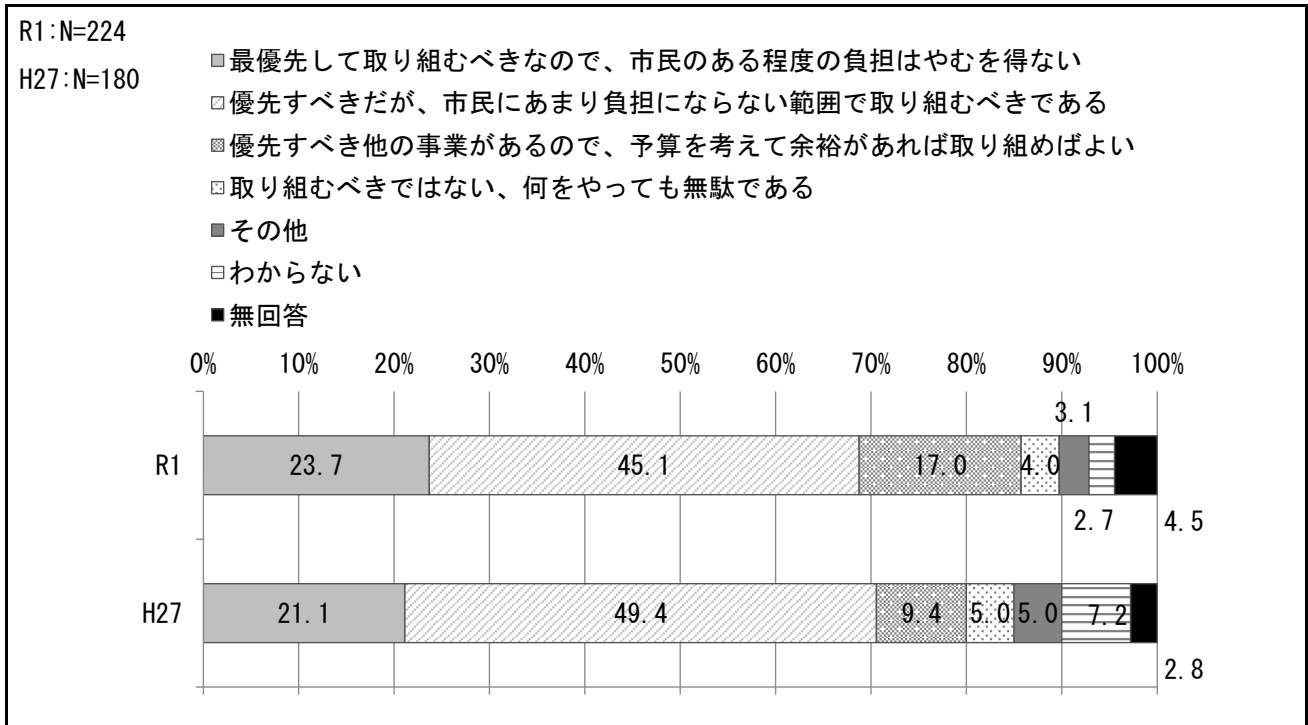
（今回初調査）



子どもが生まれた場合の育児休業の取得や短時間勤務等の希望については、「希望する」が約 66%、「希望しない」が約 10%、「わからない」が約 23%となっている。

4 少子化問題について

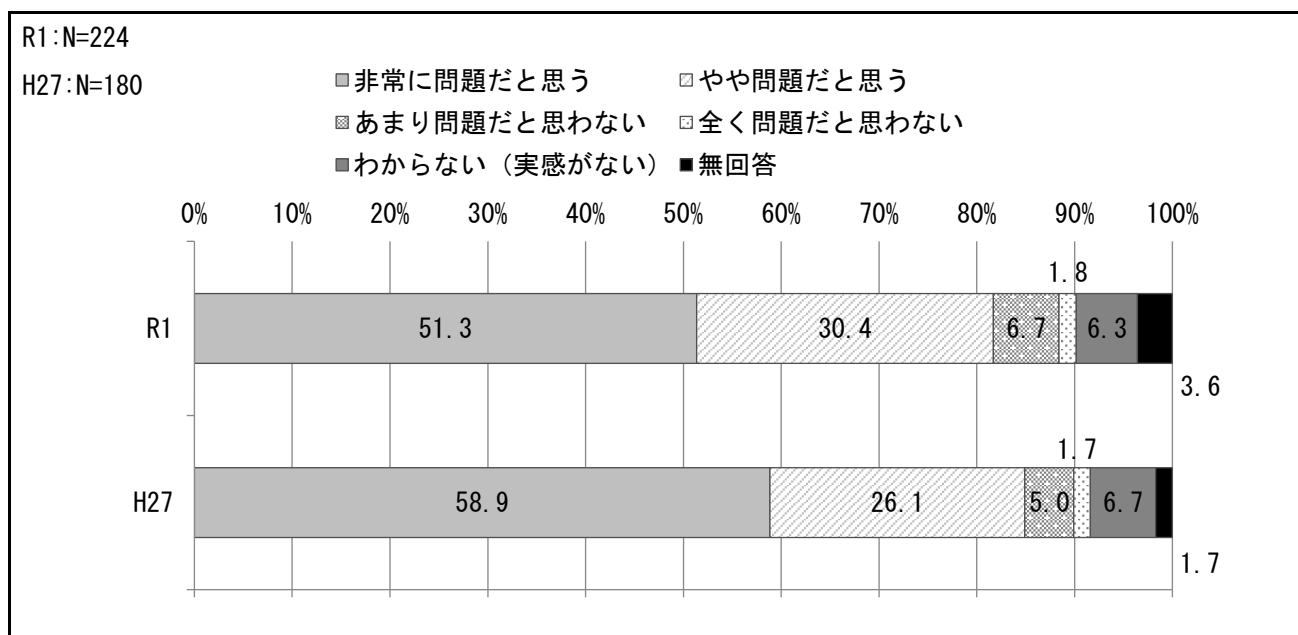
問 26 行政が少子化対策に取り組むことについての考え（〇は1つ）



行政が少子化対策に取り組むことについての考えは、「優先すべきだが、市民にあまり負担にならない範囲で取り組むべきである」が約45%と最も高く、「最優先して取り組むべきなので、市民のある程度の負担はやむを得ない」が約24%、「優先すべき他の事業があるので、予算を考えて余裕があれば取り組めばよい」が17%などと続いている。

平成27年と比較すると、「優先すべき他の事業があるので、予算を考えて余裕があれば取り組めばよい」が8%増加している。

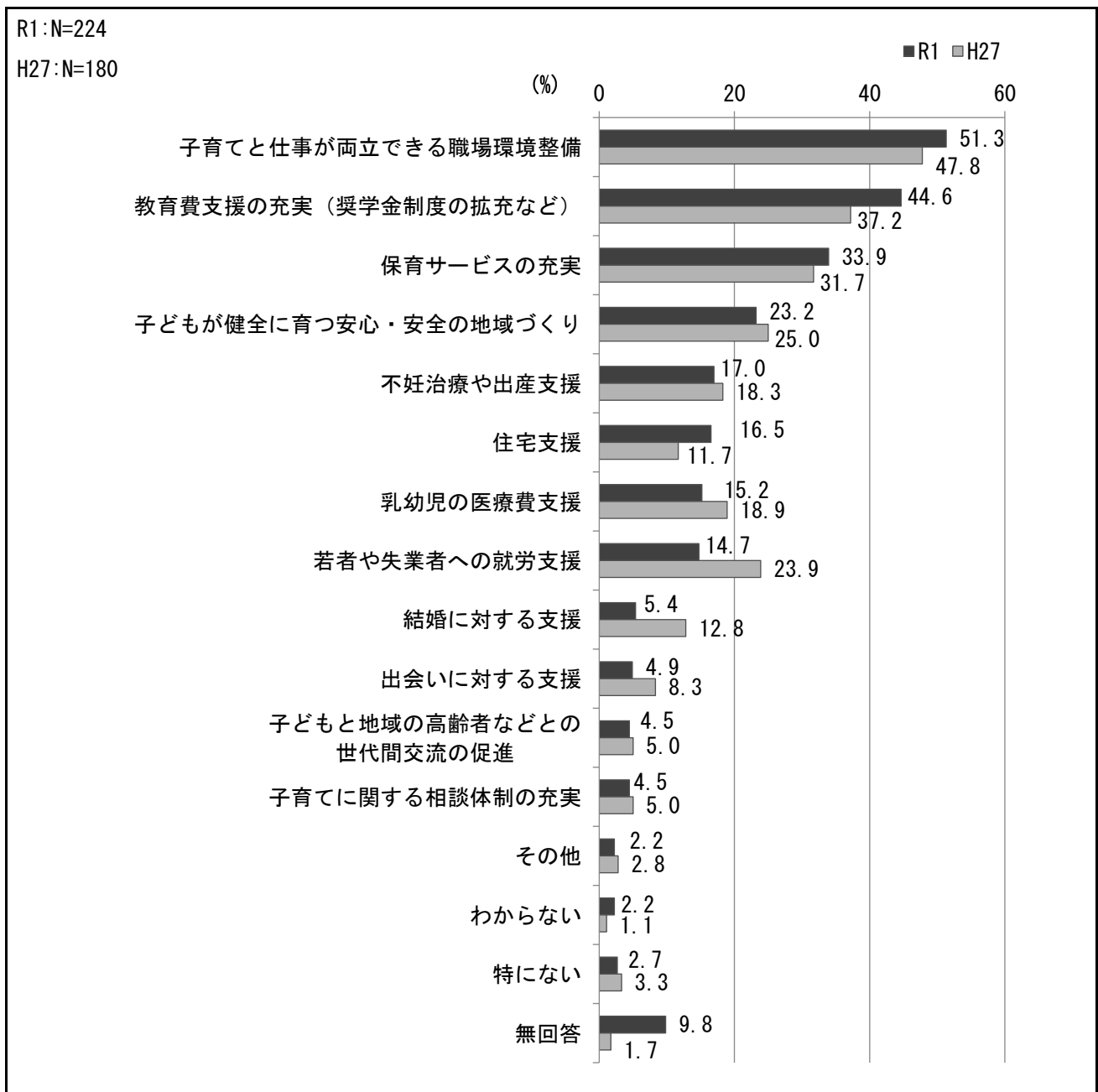
問 27 少子化の進行についての考え（○は1つ）



少子化の進行についての考えは、「非常に問題だと思う」が約51%と最も高く、次いで「やや問題だと思う」が約30%となっている。『問題だと思う』（非常に問題だと思う＋やや問題だと思う）が約82%、『問題だと思わない』（全く問題だと思わない＋あまり問題だと思わない）が約9%となっている。

平成27年と比較すると、『問題だと思う』（非常に問題だと思う＋やや問題だと思う）が約3%の減少、『問題だと思わない』（全く問題だと思わない＋あまり問題だと思わない）が約2%の増加となっている。

問 28 少子化対策を進める上で行政に充実してほしい施策（〇は3つまで）



少子化対策を進める上で行政に充実してほしい施策は、「子育てと仕事が両立できる職場環境整備」が約 51%と最も高く、「教育費支援の充実（奨学金制度の拡充など）」が約 45%、「保育サービスの充実」が約 34%などと続いている。

平成 27 年と比較すると、ほぼ同様の傾向となっている。目立ったところでは、「教育費支援の充実（奨学金制度の拡充など）」が約 7%の増加、「若者や失業者への就労支援」が約 9%、「結婚に対する支援」が約 7%の減少などとなっている。

伊東市
結婚・出産・子育てに関するアンケート
調査結果報告書

令和2年3月

発行／伊東市 企画部 市政戦略課 地域政策係
〒414-8555 静岡県伊東市大原二丁目1番1号
電話 0557-32-1062 F A X 0557-36-1104